

八雲町
公共施設等総合管理計画
(公共施設白書編)

平成28年3月

目次	ページ
1. はじめに	1
2. 八雲町の概要	
(1) 町の概況	2
(2) 町のおいたち	4
(3) 人口動向	5
(4) 財政の現状分析	7
3. 公共施設の状況	
(1) 公共施設の分類	10
(2) 公共施設（建物）の状況	11
(3) 資産老朽化の状況（全体）	14
(4) 取得年度別の建物取得価額	15
(5) 公共施設（建物）の地域別分布状況	16
(6) 耐震化の状況	18
(7) 避難施設の状況	19
(8) バリアフリーの状況	20
4. 公共施設の種類の状況	
(1) 行政施設	22
(2) 保健・福祉施設	24
(3) 医療施設	26
(4) 地域会館	28
(5) 町営住宅	32
(6) 産業・観光施設	35
(7) 社会教育施設	37
(8) 体育施設	40
(9) 学校教育施設	42
(10) 教職員住宅	45
(11) 消防施設	46
(12) 公園施設	48
(13) 環境衛生施設	49
(14) その他の施設	50

5. インフラ系施設の概要	
(1) 道路	52
(2) 橋梁	54
(3) 公園	55
(4) 上下水道施設	57
6. 公共施設等の更新等に係る中長期的な経費の見込み	
(1) 公共施設（建物）の建築年度別の状況	58
(2) 公共施設等の老朽化の状況	69
(3) 公共施設資産更新必要額	60
7. 公共施設等の現状まとめ	
(1) 公共施設等の改修・更新等への対応	63
(2) 人口減少・少子高齢化社会への対応	63
(3) 逼迫する財政状況への対応	63

1. はじめに

本町では、高度経済成長期からバブル期かけて、行政需要や住民ニーズの高まりにより、多くの公共施設を整備してきました。その結果、多くの公共施設を保有し、町民の利便性が向上した一方、公共施設を取り巻く環境の変化等への対応が求められています。

これらの施設の多くは建設から 20 年以上が経過し、経年劣化による老朽化を順次迎えることから、改修や改築費用が町財政にとって大きな負担になることが予測されます。

また、今後においても人口減少や少子高齢化の進行が予想され、扶助費などの社会保障費が増加する一方で、町税などの歳入の伸びが期待できないことから、限られた財源の下で公共施設をどのように運営、維持していくのか、その対策が大きな課題となっています。

こうした状況の中、各施設の維持管理や運営については、各所管課によって行われており、全庁的な公共施設の現状や運営状況などを横断的に分析、課題の整理等を行い、公共施設のマネジメントに取り組んで行く必要があります。

本白書は、町の保有する公共施設について、その機能や配置、経年劣化や利用状況など、公共施設の現状を把握するため作成しました。

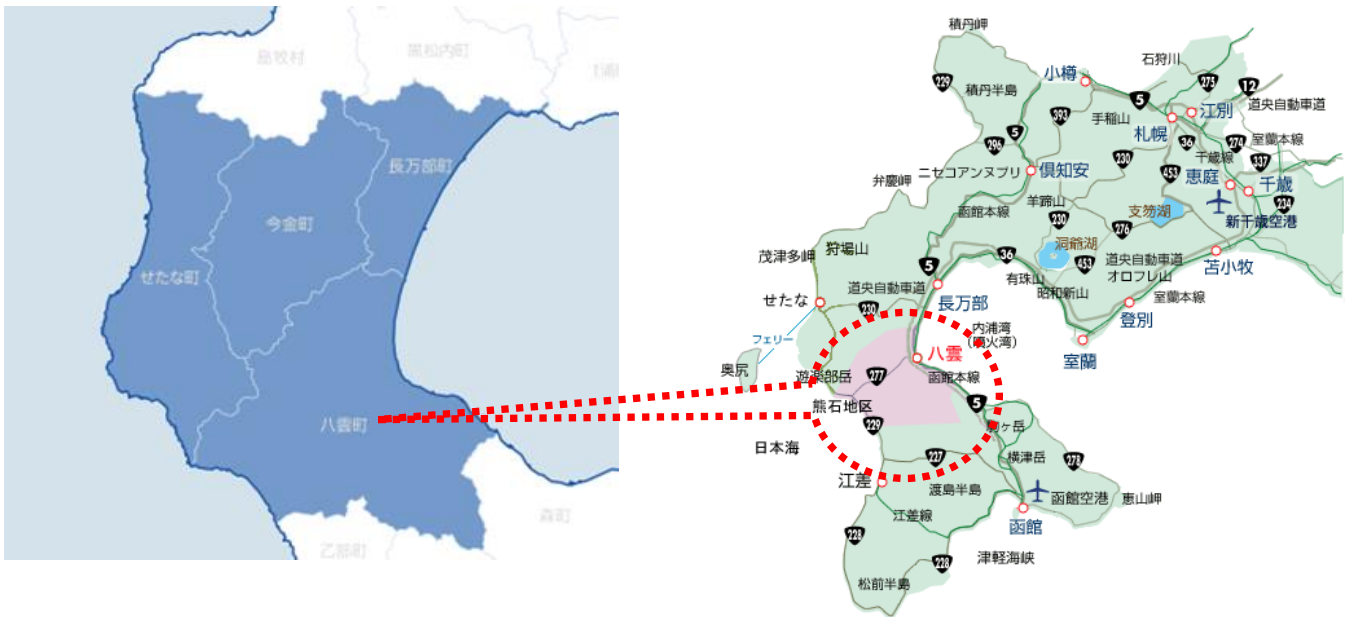
今後は、本白書を活用し、適正な施設配置や長寿命化を含めた維持管理など、将来を見据えた公共施設のあり方について検討、協議するための基礎資料として活用してまいります。

2. 八雲町の概要

(1) 町の概況

① 八雲町の位置

八雲町は北海道渡島半島の北部にあり、道南の拠点都市函館市と全道有数の重工業都市室蘭市の間位置します。東は内浦湾（噴火湾）、西は日本海に面し、北は長万部町、今金町、せたな町、南は森町、厚沢部町、乙部町と接しています。



交通では幹線道路として国道3路線があり、函館市と札幌市を結ぶ国道5号、渡島半島を横断し、太平洋と日本海を最短距離で結ぶ国道277号、日本海側の幹線道路である国道229号が通り、北海道の大動脈となっています。

鉄道では、国道5号と平行してJR函館本線が通り、青函トンネルによってダイレクトに本州と結ばれています。さらに北海道新幹線の整備計画では八雲町に新幹線新駅が設置される予定です。

高速道路網では、道央自動車道の整備が進み、平成18年11月に八雲インターチェンジが平成21年10月には落部インターチェンジが完成し、道央圏とのアクセスが大きく前進しました。さらに函館方面に向けて延伸工事中です。空路については町から約80kmの位置に函館空港（函館市）があり、空港から町までの所要時間はおよそ車で1時間45分程度です。

② 面積・人口

八雲町の広さは、約 956 平方 km で、渡島・桧山管内では最大の面積を誇っています。八雲町の人口（国勢調査数値）は、昭和 30 年の 36,171 人でピークを迎え、その後は徐々に減少を続けており、平成 17 年には 20,131 人、平成 22 年には 18,895 人となっています。また、年齢 3 区分別人口では、年少人口（14 歳以下）の減少と老年人口（65 歳以上）の増加が著しく、年を追うごとに少子高齢化の進行が顕著になっています。渡島・桧山管内の他市町村と比べると、最も多いのが函館市で 266,117 人、次いで北斗市の 46,416 人、七飯町の 28,130 人、八雲町は 17,262 人で第 4 位の人口総数となっています。（平成 27 年国勢調査速報）

直近の住民基本台帳上の人口総数は、以下のとおりです。

（平成 28 年 1 月末現在）

人口	17,514人
男	8,522人
女	8,992人
世帯数	8,581世帯

③ 気候

気候は太平洋側と日本海側で異なり、太平洋側では年平均気温 8.1℃、日本海側では暖流の影響を受け年平均気温 9.4℃となっています。降水量は太平洋側が夏に多く、冬に少なくなるのに対し、日本海側では冬に多く、夏に少なくなる傾向が見られます。また太平洋側では海洋性気候のため夏期に霧が発生することがあります。この気候を利用して八雲町では古くから酪農業が発展しました。

(2)町のおいたち

旧八雲町は開拓の祖、旧尾張藩主徳川慶勝公が北海道開拓と併せて旧臣授産のため、遊樂部の土地の下付を願い出て明治 11 年、旧藩士とその家族 82 名を移住させたことから本格的に開拓が進められました。これが、八雲町の組織的団体移住者のはじまりで、その後年々移住する戸数が増加して明治 14 年黒岩とともに独立して八雲村となりました。その後国道の開通により、役場をはじめ各施設機関が漸次山越内村から八雲村に移り、明治 35 年北海道二級町村制施行により両村が併合して八雲村ができあがりしました。

明治 36 年に鉄道が開通し、38 年に片栗粉同業組合の設立により澱粉製造業が急激に発展し、関東市場の覇権を握って“八雲片栗粉”の声価を博すようになりました。

明治 40 年には 1 級町村制施行となり、7 月現在地に役場庁舎を新築移転しました。
(当時の人口 10,565 人・戸数 2,103 戸)

明治 44 年雲石(八雲～熊石間)、太櫓の二殖民道路の開通や産業の進展に伴い、町村施行に対する住民の世論も高まり大正 8 年に待望の町村施行をみるに至ります。

(参考 第 1 回国勢調査 大正 9 年 10 月、人口 14,413 人、世帯数 2,762 戸)

昭和 32 年懸案であった落部村との合併を実現します。

旧熊石町のはじまりは、鎌倉時代後期の永仁 4 年(1296 年)に日蓮上人の六老僧の一人、日持上人がこの地に足跡を残した時を持って定められています。

元禄 4 年(1691 年)には和人地エソ地の境界地として番所が相沼から熊石に移され、当時の日本国最北の地となりましたが、寛保元年(1741 年)に松前大島の噴火があり、村損壊の危機にさらされました。

しかし、延享元年(1744 年)頃から再び有力者の移住により新たな村づくりが進められ、漁場の拡大等によりニシンの干石場所として再び繁栄するようになりました。

明治 6 年戸長、副戸長制度により熊石、泊川、相沼の 3 村に戸長が任命、明治 35 年北海道二級町村制が施行され、新しく熊石村として発足することとなりました。

明治 20 年代頃まで村の産業経済の中心であったニシン漁は明治 30 年代以降不漁の年が多く、地域活力も低迷を辿り、大正時代にはニシン漁は皆無となったためイカ漁、イワシ漁等への転換が行われました。

昭和 35 年、有史以来最も多くの人口 1 万有余人を数え、昭和 37 年には町村制施行となり、高齢化や過疎化が進む中で、地域活性化のために農漁業の基盤整備や平地区の開発等が進められてきました。

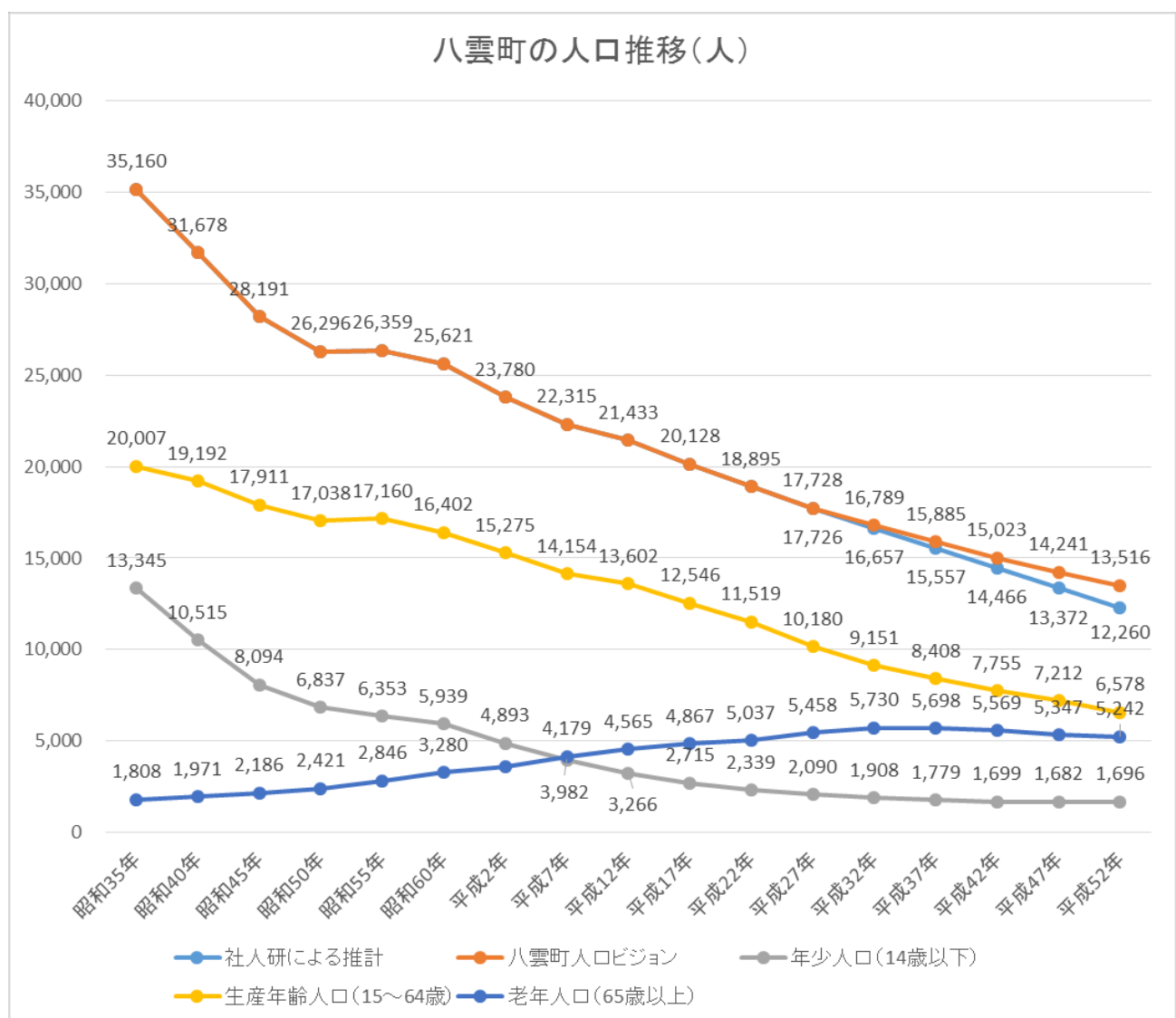
平成 17 年 10 月 1 日、旧八雲町と旧熊石町が合併を実現し、新八雲町が誕生し、日本で唯一、太平洋と日本海を持つ町となりました。

(3)人口動向

①年齢区分別の人口推移とその予測

八雲町の人口は、1960（昭和35）年の35,160人から減少を続けており、1980（昭和55）年にいったん下げ止まったものの、1985（昭和60）年以降は再び減少に転じ、2010（平成22）年の人口は18,895人となっています。

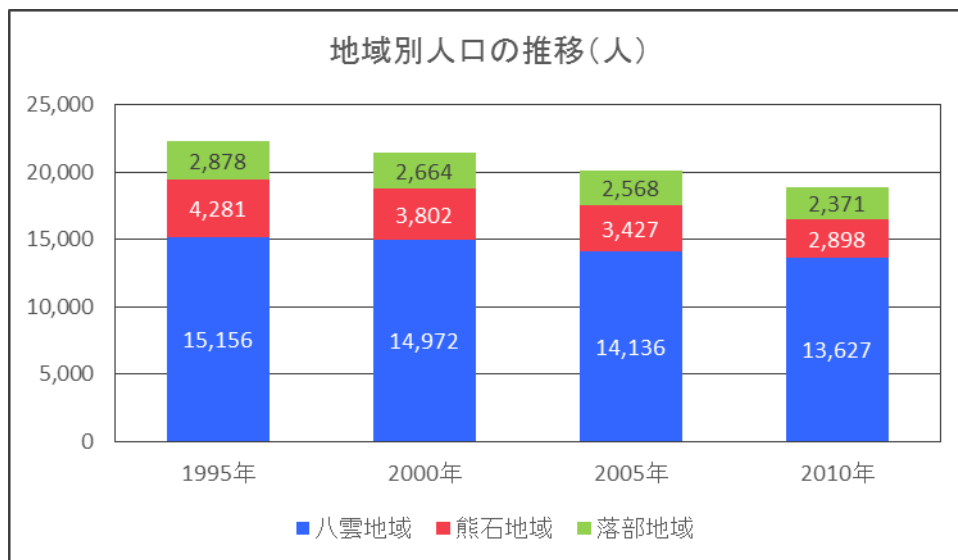
八雲町人口ビジョンの人口推計によれば、今後も人口は一貫して減少を続け、2030（平成42）年には1万5千人となり、2040（平成52）年には約1万2千人まで減少する見通しとなっています。



出典:八雲町 まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン 総合戦略

②地域別の人口推移

八雲町の人口を地域（旧町区分）別に見ると、いずれの地域においても人口が減少しています。特に熊石地域では、2010（平成 22）年の人口は 1995（平成 7）年に比べ 3 割以上減少しており、八雲地域（10.0%）や落部地域（17.6%）に比べ減少率が大きくなっています。

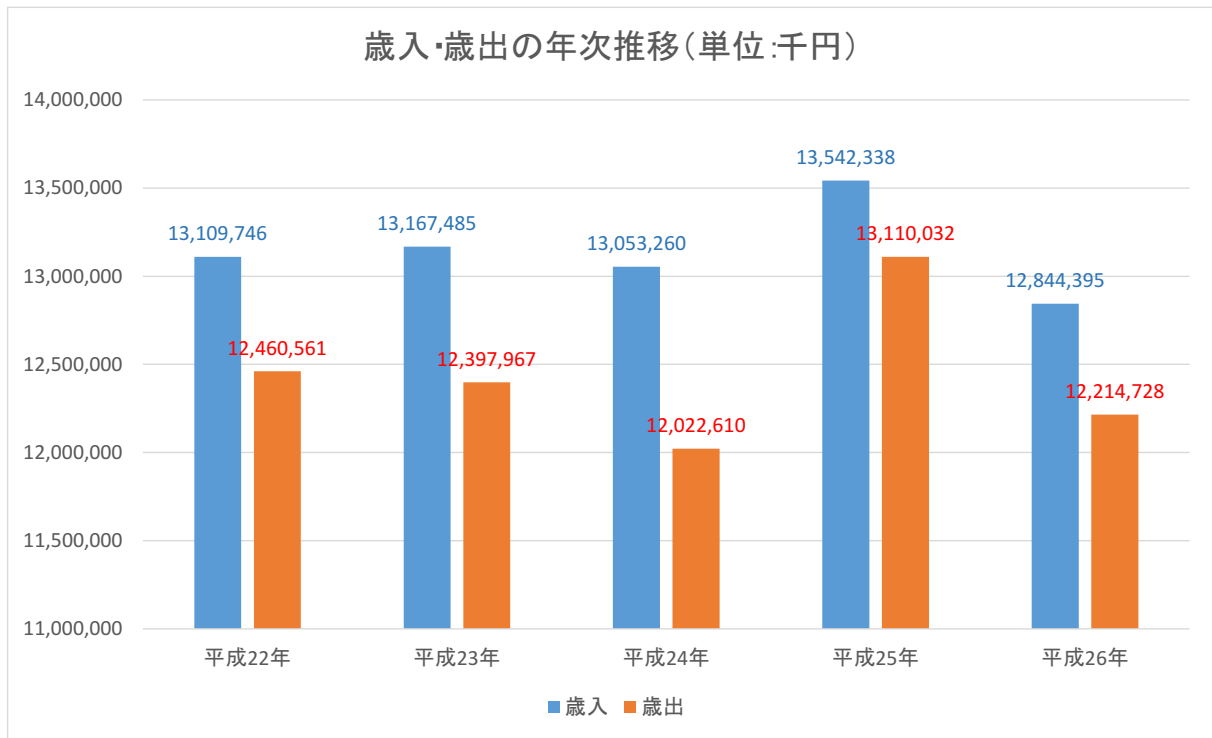


出典：国勢調査

(4) 財政の現状分析

平成26年の決算状況は、一般会計歳入が平成20年以来6年ぶりに130億円を割り込み、128億4439万円で、前年対比▲6億9794万円(▲5.2%)となりました。

一方歳出は、122億1472万円で、前年対比▲8億9530万円(▲6.8%)となり、収支的にみて、厳しい財政状況にあります。



①一般会計歳入決算額及び構成比の推移

直近5年間の本町の歳入額及びその内訳の推移は下表のとおりです。歳入決算額全体では、概ね130億円台で推移しています。

歳入全体のうち自主財源は、決算額30～40億円、構成比25～30%程度で推移しています。そのうち町税については、ほぼ18億円台で横ばいとなっています。

一方で歳入全体の7割以上は依存財源となっており、その中でも地方交付税が特に大きなウエイトを占めており、決算額60～65億円、構成比45～50%程度で推移しています。他に主な依存財源としては国・道の支出金、町債があげられます。

歳入決算額 (千円)	平成22年		平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	
自主財源	町税	1,813,498	13.8%	1,850,402	14.1%	1,827,709	14.0%	1,817,503	13.4%	1,866,639	14.5%
	分担金負担金	96,086	0.7%	100,536	0.8%	86,453	0.7%	80,443	0.6%	100,883	0.8%
	使用料及び手数料	247,901	1.9%	248,029	1.9%	256,519	2.0%	259,361	1.9%	252,667	2.0%
	財産収入	73,691	0.6%	88,651	0.7%	78,865	0.6%	58,274	0.4%	80,226	0.6%
	寄付金	1,538	0.0%	4,050	0.0%	8,572	0.1%	8,583	0.1%	53,695	0.4%
	繰入金	8,693	0.1%	26,156	0.2%	6,807	0.1%	1,108,452	8.2%	371,675	2.9%
	繰越金	107,094	0.8%	149,185	1.1%	339,518	2.6%	120,650	0.9%	132,306	1.0%
	諸収入	808,995	6.2%	919,837	7.0%	786,530	6.0%	613,693	4.5%	615,646	4.8%
	小計	3,157,496	24.1%	3,386,846	25.8%	3,390,973	26.1%	4,066,959	30.0%	3,473,737	27.0%
	依存財源	地方譲与税	146,958	1.1%	148,281	1.1%	140,000	1.1%	133,392	1.0%	131,687
利子割交付金		7,319	0.1%	5,835	0.0%	4,806	0.0%	4,882	0.0%	4,013	0.0%
配当割交付金		1,846	0.0%	1,966	0.0%	2,059	0.0%	4,264	0.0%	8,310	0.1%
株式等譲渡所得割交付金		593	0.0%	515	0.0%	567	0.0%	5,821	0.0%	4,424	0.0%
地方消費税交付金		195,992	1.5%	187,564	1.4%	183,394	1.4%	181,831	1.3%	222,226	1.7%
自動車取得税交付金		29,587	0.2%	25,037	0.2%	30,210	0.2%	34,449	0.3%	16,416	0.1%
固有提供施設等所在市町村助成交付金		40,921	0.3%	50,581	0.4%	69,303	0.5%	76,854	0.6%	79,226	0.6%
地方特例交付金		33,914	0.3%	32,495	0.3%	4,593	0.0%	5,314	0.0%	4,601	0.1%
地方交付税		6,131,201	46.8%	6,568,539	49.9%	6,281,018	48.1%	6,210,893	45.9%	6,046,550	47.1%
交通安全対策特別交付金		3,537	0.0%	3,238	0.0%	3,023	0.0%	2,814	0.0%	2,331	0.0%
国庫支出金		842,530	6.4%	721,547	5.5%	896,098	6.9%	1,347,866	10.0%	705,921	5.5%
道支出金		1,123,327	8.6%	924,336	7.0%	1,008,456	7.7%	620,121	4.6%	855,935	6.7%
町債		1,394,525	10.6%	1,110,705	8.4%	1,038,760	8.0%	846,878	6.3%	1,289,018	10.1%
小計		9,952,250	75.9%	9,780,639	74.2%	9,662,287	73.9%	9,475,379	70.0%	9,370,658	73.0%
合計		13,109,746	100.0%	13,167,485	100.0%	13,053,260	100.0%	13,542,338	100.0%	12,844,395	100.0%

②歳出決算額及び構成比の推移

直近5年間の本町の歳出額及びその内訳の推移は下表のとおりです。歳出決算額全体では、概ね120～130億円の範囲で推移しています。

歳出について性質別にその内訳を見ると、構成比が概ね10%を超えるものとしては、人件費、物件費、補助費等、公債費、繰出金、投資的経費があげられます。

そのうち、義務的経費（人件費・扶助費・公債費）が占める割合は概ね36%程度となっています。

普通建設事業費は、平成22年度には21億円でしたが、平成23、24年度と一旦16億円前後まで減少したものの、平成25、26年度では18億円と再び増加しています。

性質別経費 (千円)	平成22年		平成23年		平成24年		平成25年		平成26年	
	決算	構成比	決算	構成比	決算	構成比	決算	構成比	決算	構成比
人件費	2,212,778	17.8%	2,130,920	17.2%	2,057,322	17.1%	2,069,206	15.8%	1,950,731	16.0%
物件費	1,446,956	11.6%	1,621,931	13.1%	1,419,565	11.8%	1,516,163	11.6%	1,559,455	12.8%
維持補修費	305,225	2.5%	310,739	2.5%	289,576	2.4%	304,208	2.3%	299,904	2.5%
扶助費	900,244	7.2%	949,716	7.7%	954,333	7.9%	996,743	7.6%	1,135,443	9.3%
補助費等	1,917,130	15.4%	1,582,891	12.8%	1,397,966	11.7%	1,391,500	10.6%	1,862,476	15.2%
公債費	1,408,661	11.3%	1,388,975	11.2%	1,361,270	11.3%	1,399,276	10.7%	1,408,249	11.5%
元利償還金	1,408,661	11.3%	1,388,975	11.2%	1,361,270	11.3%	1,398,511	10.7%	1,408,025	11.5%
一時借入金利息	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	765	0.0%	224	0.0%
積立金	134,742	1.1%	463,625	3.7%	483,025	4.0%	1,761,651	13.4%	370,197	3.0%
投資及び出資金貸付金	467,038	3.7%	430,799	3.5%	384,918	3.2%	377,243	2.9%	375,712	3.1%
繰り出し金	1,401,523	11.2%	1,341,422	10.8%	1,364,338	11.4%	1,366,740	10.4%	1,371,862	11.2%
投資的経費	2,266,264	18.2%	2,176,949	17.5%	2,310,297	19.2%	1,927,302	14.7%	1,880,699	15.4%
普通建設事業費	2,131,297	17.1%	1,563,371	12.6%	1,642,162	13.6%	1,855,029	14.1%	1,802,690	14.8%
災害復旧事業費	134,967	1.1%	613,578	4.9%	668,135	5.6%	72,273	0.6%	78,009	0.6%
合計	12,460,561	100.0%	12,397,967	100.0%	12,022,610	100.0%	13,110,032	100.0%	12,214,728	100.0%

3. 公共施設の状況

(1) 公共施設の分類

本町が保有する公共施設等のうち、公共施設（建物）とインフラ系施設を対象とします。公共施設（建物）については、下図のとおり分類します。

インフラ系施設については、道路、橋梁、公園、上下水道施設の4類型を対象として現状等の把握や基本的な方針を検討します。

なお、公園の取り扱いについては、公共施設（建物）とインフラ系施設のそれぞれで対象としています。市民のニーズなどを踏まえた公園内建築物と公園内でも建築物にあたらない構造物に区分しています。

■ 公共施設等の分類

大分類	分類	主な施設
公共施設 (建物)	01.行政施設	役場庁舎など
	02.保健・福祉施設	保育園、子育て支援センター、デイサービスセンターなど
	03.医療施設	病院、診療所など
	04.地域会館	地域会館、振興会館、生活改善センターなど
	05.町営住宅	町営住宅など
	06.産業・観光施設	情報交流物産館丘の駅、地域バイオマス利活用施設など
	07.社会教育施設	公民館、図書館など
	08.体育施設	総合体育館、スキー場、プールなど
	09.学校教育施設	小中学校、給食センターなど
	10.教職員住宅	教員住宅、職員住宅など
	11.消防施設	消防本部庁舎、分団格納所など
	12.公園施設	公園の管理人詰所、トイレなど
	13.環境衛生施設	斎場、浄化センター、リサイクルセンターなど
	14.その他の施設	車両センター、バス待合所など
施設 インフラ系	道路	町道、農道、林道
	橋梁	橋梁
	公園	都市公園
	上下水道	管渠・ポンプ施設・浄水場など

(2) 公共施設(建物)の状況

① 全体の概要

さまざまな住民サービス活動（事業活動）に用いられる資産を、そのサービスに比して分類すれば、次のとおりです。

本町の公共施設（建物）延床面積（以下面積、単位は㎡と表記）の合計は約 24 万㎡となっています。延床面積の内訳は、学校教育施設が 22.7%、町営住宅が 17.9%、次いで医療施設の 15.7%となっています。

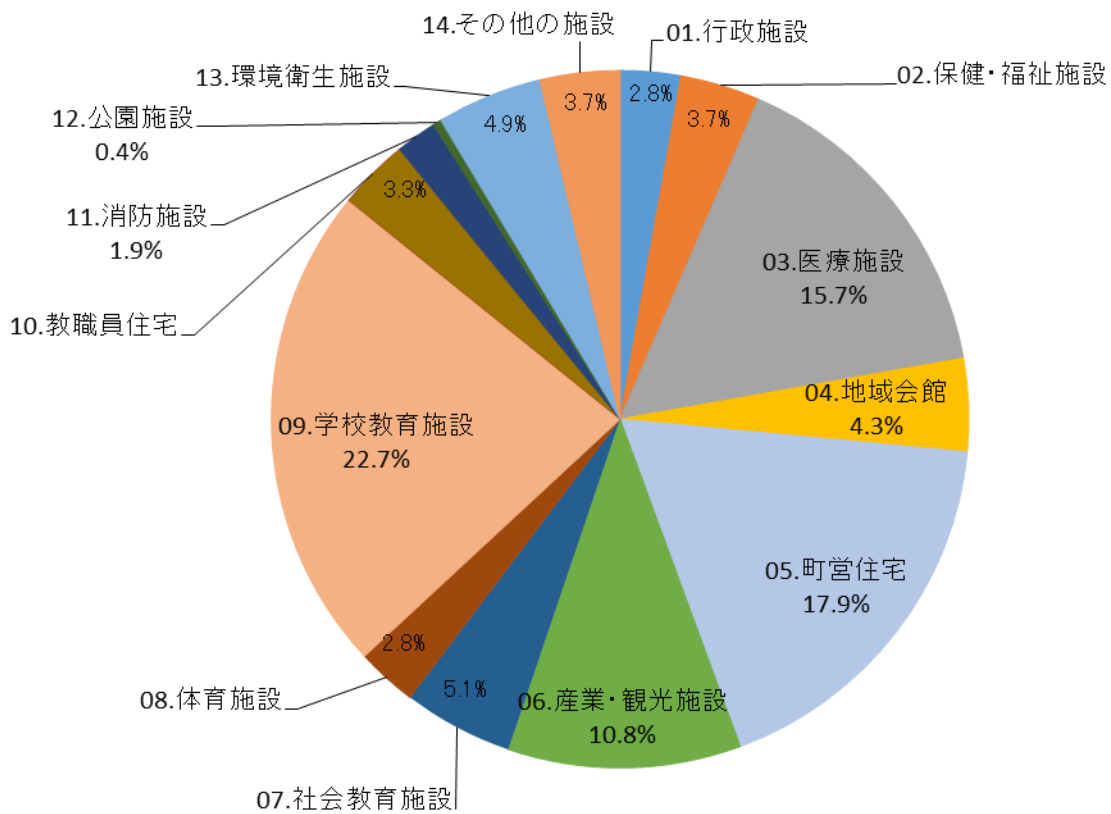
なお、公共施設（建物）の面積は施設本体だけではなく、付帯施設（物置等）も含まれます。また、施設数とは、病院や学校など、複数の棟で構成される施設を 1 件の施設として計上したものです。

■ 施設分類別の延床面積とその構成比

施設分類	施設数（件）	棟数（棟）	延床面積（㎡）	構成比（%）
01. 行政施設	2	6	6,821	2.8%
02. 保健・福祉施設	11	18	8,960	3.7%
03. 医療施設	14	20	37,732	15.7%
04. 地域会館	53	56	10,410	4.3%
05. 町営住宅	149	149	43,155	17.9%
06. 産業・観光施設	43	85	26,068	10.8%
07. 社会教育施設	13	13	12,158	5.1%
08. 体育施設	13	13	6,841	2.8%
09. 学校教育施設	22	54	54,585	22.7%
10. 教職員住宅	95	95	7,864	3.3%
11. 消防施設	16	16	4,480	1.9%
12. 公園施設	20	20	912	0.4%
13. 環境衛生施設	19	25	11,900	4.9%
14. その他の施設	54	59	8,789	3.7%
総計	524	629	240,675	100.0%

※数値は平成 28 年 3 月 31 日現在の公有財産台帳及び固定資産台帳、建物災害共済基礎データ等を参考にしています。

■分類別施設の延床面積割合



②人口一人当たりの面積

本町の人口一人当たりの公共施設（建物）の延床面積は、13.48 m²となっております。人口は平成27年1月1日現在の17,852人（他団体との比較のため）で計算しています。

■人口一人当たりの面積

施設分類	施設数(件)	延床面積(m ²)	人口一人当たりの延床面積(m ²)
01.行政施設	2	6,821	0.38
02.保健・福祉施設	11	8,960	0.50
03.医療施設	14	37,732	2.11
04.地域会館	53	10,410	0.58
05.町営住宅	149	43,155	2.42
06.産業・観光施設	43	26,068	1.46
07.社会教育施設	13	12,158	0.68
08.体育施設	13	6,841	0.38
09.学校教育施設	22	54,585	3.06
10.教職員住宅	95	7,864	0.44
11.消防施設	16	4,480	0.25
12.公園施設	20	912	0.05
13.環境衛生施設	19	11,900	0.67
14.その他の施設	54	8,789	0.49
総計	524	240,675	13.48

(3)資産老朽化の状況(全体)

公共施設等の老朽化率は以下の計算式で表すことができます。老朽化率は100%に近いほど老朽化が進んでいると言えます。平均的な資産老朽化比率は、35%~50%程度とされています。

$$\text{老朽化率} = \text{減価償却累計額} / \text{取得価額（再調達価額）}$$

この計算式を用いて現在の八雲町の資産分類ごとの老朽化率を示すと、下表のとおりとなります。

公共施設等における老朽化率は全体で51.0%となっています。医療施設や消防施設は比較的新しい施設が多く、老朽化率は低くなっています。一方で、地域会館や教職員住宅は老朽化率が80%台と高く、今後の建て替え等の検討が必要になります。

■施設分類別の価額及び老朽化率

施設分類	取得価額/ 再調達価額 (千円)	減価償却累計額 (千円)	期末帳簿価額 ¹ (千円)	老朽化率 (%)
01.行政施設	1,159,098	758,377	400,721	65.4%
02.保健・福祉施設	1,926,137	1,123,601	802,536	58.3%
03.医療施設	11,012,858	3,723,900	7,288,958	33.8%
04.地域会館	1,152,116	1,018,897	133,219	88.4%
05.町営住宅	4,318,703	2,761,418	1,557,285	63.9%
06.産業・観光施設	3,837,754	1,954,580	1,883,174	50.9%
07.社会教育施設	2,164,021	1,189,221	974,800	55.0%
08.体育施設	1,640,011	690,488	949,523	42.1%
09.学校教育施設	10,868,723	6,170,214	4,698,509	56.8%
10.教職員住宅	953,054	788,039	165,015	82.7%
11.消防施設	1,075,236	291,685	783,551	27.1%
12.公園施設	243,241	166,322	76,919	68.4%
13.環境衛生施設	4,726,980	2,067,293	2,659,687	43.7%
14.その他の施設	1,415,389	1,008,755	406,634	71.3%
総計	46,493,321	23,712,790	22,780,531	51.0%

※期末帳簿価額は平成28年3月31日現在の金額を記載しております。

※財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」に基づき算出しております。

¹ 期末帳簿価額…建物や物品などの固定資産について、取得価額または再調達価額から減価償却累計額を除いた金額。時間の経過や使用により価値が減少した残りの資産価値を示す。

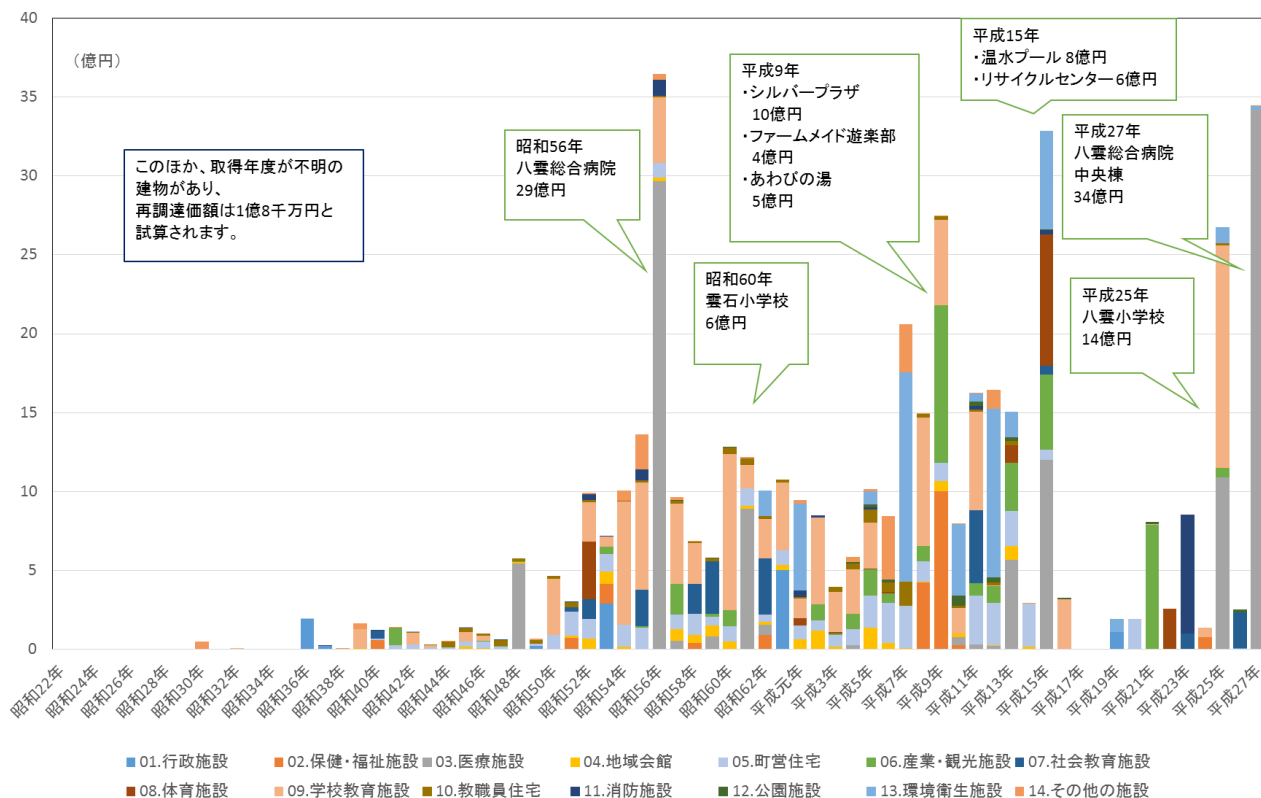
(4)取得年度別の建物取得価額

下記のグラフは、本町の公共施設（建物）の取得価額（建築価額）を取得年度ごとに積み上げたものです。全体としては、昭和50年代の高度成長期からバブル期を経た平成15年頃までに建物の建設が集中してきたことがわかります。

施設分類別の内訳を見ると、医療施設や学校教育施設は建築価格の金額も大きく、施設全体の中でも大きなウエイトを占めていることがわかります。また、個別の施設では、保健・福祉施設や産業・観光施設、体育施設、環境衛生施設などにも、規模が大きく取得価額が高額なものがあります。

一方で、住宅はコンスタントに建設されていますが、建築価額としては規模がそれほど大きくないことがわかります。

■取得年度別・施設分類別の取得価額



(5)公共施設(建物)の地域別分布状況

公共施設(建物)を地域別に見ると、八雲地域では総延床面積が約 17.4 万㎡、熊石地域では約 6.6 万㎡となっています。

それぞれの地域の内訳をみると、八雲地域で学校教育施設が21.4%、医療施設が19.2%、町営住宅が15.3%となります。八雲地域の医療施設が多いのは、八雲総合病院の占める割合が大きいためと考えられます。

一方、熊石地域では、学校教育施設が26%、町営住宅が24.8%とそれぞれ約4分の1ずつを占め、次いで産業・観光施設の15.3%と続きます。

■地域別・施設分類別の延床面積とその構成比

施設分類	八雲地域			熊石地域		
	施設数 (件)	延床面積 (㎡)	構成比 (%)	施設数 (件)	延床面積 (㎡)	構成比 (%)
01.行政施設	1	4,920	2.8%	1	1,901	2.9%
02.保健・福祉施設	7	6,812	3.9%	4	2,148	3.2%
03.医療施設	5	33,432	19.2%	9	4,300	6.5%
04.地域会館	43	8,481	4.9%	10	1,929	2.9%
05.町営住宅	96	26,682	15.3%	53	16,473	24.8%
06.産業・観光施設	21	15,893	9.1%	22	10,175	15.3%
07.社会教育施設	10	8,937	5.1%	3	3,221	4.8%
08.体育施設	11	6,738	3.9%	2	103	0.2%
09.学校教育施設	15	37,259	21.4%	7	17,326	26.0%
10.教職員住宅	48	4,389	2.5%	47	3,475	5.2%
11.消防施設	8	3,572	2.1%	8	908	1.4%
12.公園施設	20	912	0.5%	-	-	-
13.環境衛生施設	15	9,501	5.5%	4	2,399	3.6%
14.その他の施設	39	6,682	3.8%	15	2,107	3.2%
総計	339	174,210	100.0%	185	66,465	100.0%

また、地域別に建物の資産別老朽化率を見ると、下記の表のとおりになります。

社会教育施設と環境衛生施設を除き、ほとんどの施設において熊石地域の建物のほうがより老朽化が進んでおり、八雲地域全体では 47.2%、熊石地域全体では 62.2%の老朽化率となっています。

施設分類別に比較すると、特に地域間で差があるのが医療施設や体育施設、消防施設で、八雲地域で規模の大きな施設の改築等があるためと考えられます。一方、新築後、建て替え等が行われていない地域会館・教職員住宅などでは、地域間の老朽化率にほとんど差がありません。

■地域別・施設分類別の価額及び老朽化率

施設分類	八雲地域		熊石地域	
	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
01.行政施設	223,493	68.9%	177,228	59.8%
02.保健・福祉施設	611,071	56.7%	191,465	62.7%
03.医療施設	6,577,039	31.9%	711,919	47.6%
04.地域会館	124,593	87.6%	8,626	94.5%
05.町営住宅	1,018,504	58.4%	538,781	71.2%
06.産業・観光施設	981,025	42.8%	902,149	57.5%
07.社会教育施設	596,201	55.8%	378,599	53.5%
08.体育施設	949,523	42.0%	0	100.0%
09.学校教育施設	3,991,407	51.9%	707,102	72.5%
10.教職員住宅	119,854	77.7%	45,161	89.1%
11.消防施設	731,267	21.3%	52,284	64.3%
12.公園施設	76,919	68.4%	-	-
13.環境衛生施設	1,930,904	45.6%	728,783	37.8%
14.その他の施設	396,698	68.6%	9,936	93.5%
総計	18,328,498	47.2%	4,452,033	62.2%

※期末帳簿価額は平成 28 年 3 月 31 日現在の金額を記載しております。

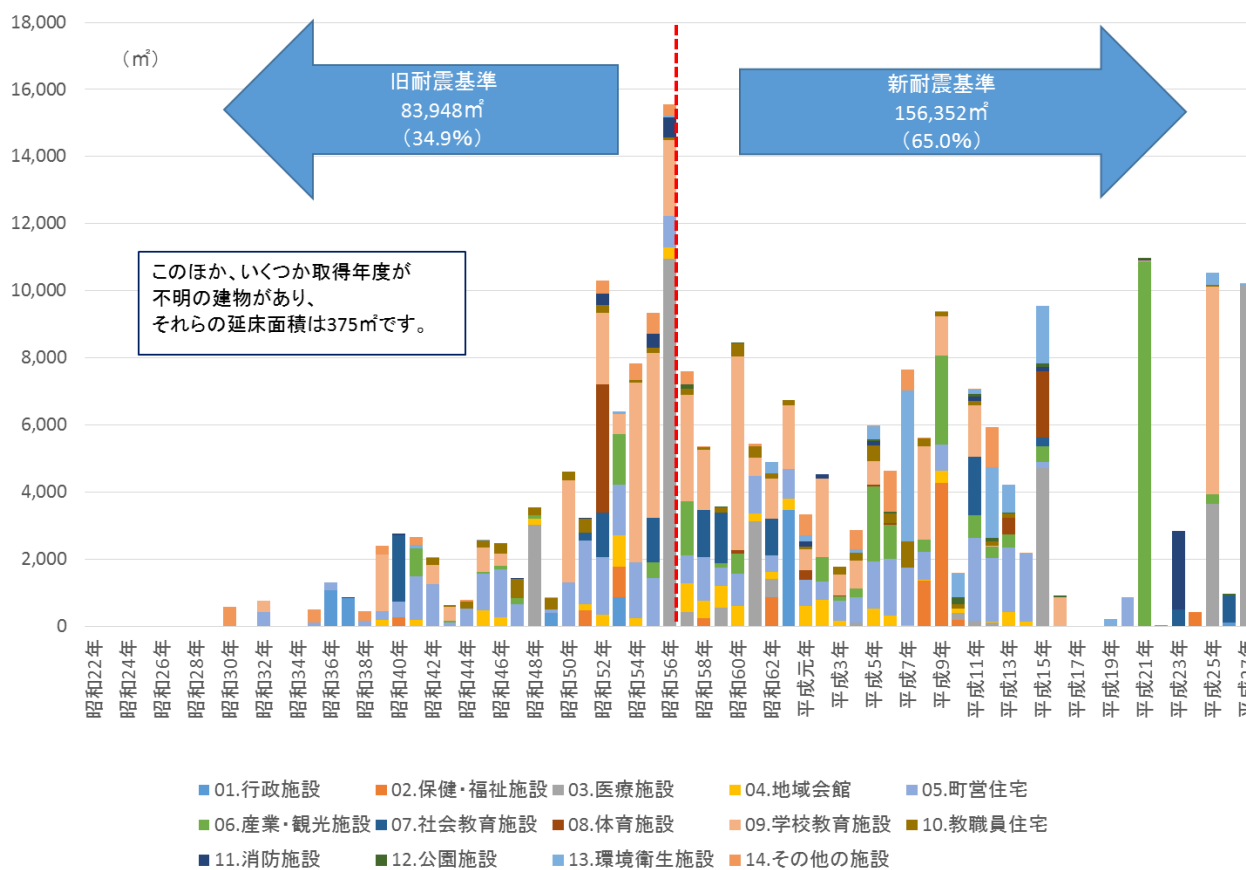
(6)耐震化の状況

現行の耐震基準（新耐震基準）は、昭和56年（1981年）に改正され、導入されたものです。新耐震基準の考え方は、中規模の地震（震度5強程度）に対しては、ほとんど損傷を生じず、極めて稀にしか発生しない大規模の地震（震度6強から震度7程度）に対しては、人命に危害を及ぼすような倒壊等の被害を生じないことを目標としたものとなっています。

上記をひとつの基準とし、本町における取得年度（建築年度）別の延床面積（㎡）を見ると下図のとおりになります。

本町においては、旧耐震基準（昭和56年以前）に建築されたものが、34.9%を占めています。3割以上の建物が旧耐震構造による建築物となっており、耐震化や長寿命化など、今後の対応を考える必要があります。

■取得年度別・分類別延床面積 ※（参考）固定資産台帳データ



(7)避難施設の状況

現在、本町における避難施設は津波災害時以外の避難場所と津波災害時の避難場所の大きく2種類に分類しています。

①津波災害時以外の避難場所

津波災害時以外の避難場所は、八雲地域で31か所、熊石地域で24か所になります。いずれも、地域会館系の施設や学校等が指定されています。

地域	避難場所
八雲地域	31
熊石地域	24
合計	55

②津波災害時の避難場所

津波災害時の避難場所は、町所有施設では八雲地域で7か所、熊石地域で12か所になります。いずれも、地域会館系の施設や学校が主な施設になっています。

しかし、八雲地域及び熊石地域それぞれ、津波災害時の避難場所が町所有施設以外でそのほとんどが構成されています。

地域	避難場所
八雲地域	18
熊石地域	37
合計	55

(8)バリアフリーの状況

本町の主要な施設におけるバリアフリー設備の設置状況は下記のとおりです。

※バリアフリー設備の詳細

- ① 身体障害者用トイレ
- ② 自動ドア
- ③ 手すり
- ④ 点字ブロック
- ⑤ 車いす用スロープ
- ⑥ 車いす用エレベーター（階段昇降機含む）

施設分類	名 称	バリアフリー設備の有無					
		①	②	③	④	⑤	⑥
01. 行政施設	八雲町役場庁舎	○	○		○	○	
01. 行政施設	熊石総合支所		○			○	
02. 保健・福祉施設	どんぐりクラブ	○	○				
02. 保健・福祉施設	シルバープラザ	○	○	○	○	○	
02. 保健・福祉施設	熊石デイサービスセンター	○	○	○	○		
03. 医療施設	おとしべ歯科クリニック	○		○			
04. 地域会館	東部生活館			○		○	
04. 地域会館	三杉町会館					○	
04. 地域会館	出雲町会館					○	
04. 地域会館	内浦生活館					○	
04. 地域会館	山崎1区会館					○	
04. 地域会館	野田生会館					○	
04. 地域会館	栄町会館					○	
04. 地域会館	山越中央会館					○	
04. 地域会館	黒岩会館					○	
04. 地域会館	落部レクリエーションセンター	○		○		○	
05. 町営住宅	出雲町A団地10			○		○	
05. 町営住宅	新栄町団地1			○		○	
05. 町営住宅	新栄町団地2			○		○	
05. 町営住宅	新栄町団地3			○		○	
05. 町営住宅	落部団地1			○		○	
05. 町営住宅	落部団地2			○		○	
06. 産業・観光施設	ファームメイド遊楽部一号館	○	○	○	○	○	
06. 産業・観光施設	青少年旅行村 ふれあい交流館	○				○	

施設分類	名 称	バリアフリー設備の有無					
		①	②	③	④	⑤	⑥
06. 産業・観光施設	トイレットひらたない	○				○	
06. 産業・観光施設	あわびの湯	○	○	○		○	
07. 社会教育施設	八雲町公民館	○	○			○	○
07. 社会教育施設	八雲町立図書館	○	○	○	○	○	○
07. 社会教育施設	八雲町民センター	○	○			○	
07. 社会教育施設	落部町民センター	○	○			○	○
07. 社会教育施設	ふれあい交流センターくまいし館	○	○	○			
08. 体育施設	八雲町温水プール	○	○	○	○	○	○
08. 体育施設	八雲町営スキー場 休憩施設ロッジ	○	○	○		○	
08. 体育施設	八雲町総合体育館	○	○	○		○	○
09. 学校教育施設	落部小学校	○		○		○	
09. 学校教育施設	東野小学校		○	○			
09. 学校教育施設	野田生小学校		○	○			
09. 学校教育施設	山越小学校		○	○			
09. 学校教育施設	山崎小学校		○			○	
09. 学校教育施設	八雲小学校	○	○	○		○	○
09. 学校教育施設	落部中学校		○	○		○	
09. 学校教育施設	野田生中学校	○	○	○		○	
09. 学校教育施設	八雲中学校	○	○	○	○	○	○
11. 消防施設	八雲町消防本部庁舎	○	○	○		○	

4. 公共施設の種類の状況

(1) 行政施設

①現在の状況

行政施設は、八雲地域と熊石地域に各1か所、計2か所の施設があります。

八雲町役場は、当初建設から50年以上経過していますが、昭和63年度に大規模な改修工事を行っており、累計の老朽化率が68.9%となっています。

一方、熊石総合支所も、建設から50年以上経過していますが、昭和53年度・平成19年度に大規模な改修工事を行っており、老朽化率は59.8%となっています。いずれも、今後の建て替え等の検討が必要になります。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	八雲町役場庁舎	昭和36年	4,920	718,342	223,493	68.9%
2	熊石総合支所	昭和37年	1,901	440,756	177,228	59.8%

※上記の値には、車庫等の附属建物も合算されています。

■八雲町役場庁舎



■熊石総合支所



②維持管理費の状況

主要な施設の維持管理費の状況を下記の表に示します。

(単位：千円)

施設名称	人件費	物件費、経費	合計
八雲町役場庁舎	6,938	21,508	28,446
熊石総合支所	1,874	17,994	19,868

※物件費は燃料費や水光熱費、経費は委託費や手数料等になります。

※平成26年度決算より集計しています。(以下同様)

③他自治体との比較

主な分類による道内他団体（近隣市及び人口が1～2万人程度の市町）との比較を示すと以下のとおりになります。

なお、道内他団体との比較については、総務省の「平成 25 年度公共施設状況調経年比較表」のデータを用いています。また、人口については、他団体との比較の為、平成 27 年 1 月末現在の数値を使用しています。

道内の他の同規模自治体と比較して、延床面積及び人口一人当たりの延床面積ともに、平均よりも広いことがわかります。

■同規模自治体との比較（庁舎）

番号	団体名	自治体情報		延床面積 (㎡)	人口一人当たり 延床面積 (㎡/人)
		人口 (人)	行政面積 (km ²)		
1	八雲町	17,852	956	5,985	0.34
2	新ひだか町	24,295	1,148	5,448	0.22
3	中標津町	24,205	685	6,815	0.28
4	美唄市	23,984	278	6,943	0.29
5	紋別市	23,644	831	5,283	0.22
6	富良野市	23,324	601	6,043	0.26
7	留萌市	22,957	298	5,296	0.23
8	深川市	22,278	529	7,590	0.34
9	遠軽町	21,432	1,332	5,976	0.28
10	美幌町	20,851	438	3,640	0.17
11	士別市	20,676	1,119	4,848	0.23
12	釧路町	20,329	253	5,692	0.28
13	余市町	20,152	141	3,742	0.19
14	芽室町	19,218	514	3,944	0.21
15	白老町	18,378	426	4,275	0.23
16	砂川市	18,112	79	5,015	0.28
17	当別町	17,251	423	3,526	0.20
18	森町	17,004	369	3,810	0.22
19	別海町	15,847	1,320	8,408	0.53
20	倶知安町	15,825	261	3,093	0.20
21	芦別市	15,404	865	6,066	0.39
平均		20,144	613	5,307	0.27

※道内他団体と比較するため、上記延床面積には、付帯施設の面積は含まれておりません。

(2)保健・福祉施設

①現在の状況

当町の主な保健・福祉施設は、以下のとおりです。

認可保育所を見ると、町内で現在5か所が運営しています。このうち、八雲地域は3か所で、全ての施設は民間で運営しています。

一方、熊石地域は2施設でいずれも町営で運営しています。

全国的に見ても、子育て関連施設のニーズは高いことから今後はそれぞれの施設の老朽化を踏まえた再配置等の検討が必要になります。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	どんぐりクラブ	昭和40年	257	58,714	0	100.0%
2	はまなす保育園	昭和53年	200	14,200	0	100.0%
3	わんぱくクラブ	昭和62年	178	30,758	0	100.0%
4	子育て支援センター	昭和62年	728	69,464	1,298	98.1%
5	こばと保育園	平成8年	619	136,621	16,908	87.6%
6	シルバープラザ	平成9年	4,418	1,023,570	524,666	48.7%
7	八雲総合病院 院内保育所	平成24年	412	79,118	68,199	13.8%
8	相沼保育園	昭和51年	480	75,538	0	100.0%
9	熊石保育園	昭和53年	703	110,475	110	99.9%
10	母子健康センター	昭和58年	235	39,424	14,193	64.0%
11	熊石デイサービスセンター	平成8年	730	288,255	177,162	38.5%

②保育所の状況

(平成27年4月1日現在)

	保育所名	設置主体名	収容定員	収容現員	職員数	施設の面積(m ²)
認可保育園	国の子保育園	私立	90	83	15(9)	589.28
	なかよし保育園	私立	90	87	19(10)	957.28
	あかしや保育園	私立	50	55	11(8)	683.52
	熊石保育園	町立	60	14	6(4)	702.8
	相沼保育園	町立	45	9	5(4)	408.18
	小計		335	248	56(35)	3,341.06
季節保育園	こばと保育園	運営委員会	80	49	6(5)	593.76
	はまなす保育園	運営委員会	20	5	3(2)	200.07
	小計		100	54	9(7)	793.83
合計			435	302	65(42)	4,134.89

※()書は保育士の内数です。(資料:住民生活課)

③維持管理費の状況

主要な施設の維持管理費の状況を下記の表に示します。(平成26年度決算より)

(単位:千円)

施設名称	人件費	物件費、経費	合計
子育て支援センター	16,083	815	16,898
相沼保育園	17,703	2,995	20,698
熊石保育園	21,147	4,365	25,512

■子育て支援センター



■相沼保育園



(3)医療施設

①現在の状況

本町の主な医療施設は、以下のとおりです。八雲総合病院は平成 27 年 12 月に本館棟の改築が完了しています。当町の医療体制は八雲総合病院を核とした、サービス展開となっています。

なお、八雲総合病院の取得年度は旧本館棟が建設された年度を記載しております。また、熊石国保病院は平成 13 年度に大規模改修を行っています。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	八雲総合病院	昭和 56 年	32,350	9,512,862	6,541,308	31.2%
2	八雲総合病院院長住宅	昭和 57 年	220	29,501	0	100.0%
3	八雲総合病院副院長住宅	昭和 57 年	199	24,937	0	100.0%
4	八雲総合病院富士見住宅	昭和 62 年	547	62,184	23,878	61.6%
5	おとしべ歯科クリニック	平成 15 年	116	23,898	11,853	50.4%
6	熊石国保病院	昭和 48 年	3,026	1,113,728	610,673	45.2%
7	熊石国保病院医師住宅	平成 10 年	81	18,323	3,994	78.2%
8	熊石国保病院医師用住宅	平成 11 年	166	32,918	8,690	73.6%
9	熊石国保病院医師用住宅	平成 12 年	111	21,420	6,640	69.0%
10	熊石国保病院看護師宿舎	昭和 59 年	469	72,695	23,117	68.2%
11	熊石国保病院看護師住宅	平成 25 年	119	29,193	26,507	9.2%
12	熊石国保病院看護師住宅	平成 25 年	145	35,571	32,298	9.2%
13	熊石歯科診療所	平成 3 年	100	27,285	0	100.0%
14	熊石歯科診療所住宅	昭和 59 年	83	8,343	0	100.0%

日本医師会の地域医療情報システムによると、人口 10 万人あたりの病床数（病院病床）3,688.61 床であり、全国平均の 1,214.25 床を大きく上回り、十分なサービス量が確保できていると考えられます。

■ 10 万人あたり病床数

病床種別の病床数		病床数		人口 10 万人あたり病床数	
		八雲町	八雲町	八雲町	全国平均
一般診療所病床		19	100.55	86.78	
病院傷病（全区分計）		697	3688.61	1214.25	
病床分類	一般病床	433	2291.49	697.7	
	精神病床	100	529.21	260.07	
	療養病床	160	846.74	250.83	
	結核・感染症病床	4	21.17	5.65	

■ 八雲総合病院



■ 熊石国保病院



■ おとしべ歯科クリニック



■ 熊石歯科診療所



(4)地域会館

①現在の状況

本町の主な地域会館は、以下のとおりです。地域活動の拠点であり、防災上の観点からも今後の建て替えや統合などの検討が必要です。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
八雲地域						
1	柏沼会館	昭和 45 年	134	6,736	0	100.0%
2	下の湯会館	昭和 46 年	84	2,300	0	100.0%
3	東野母と子の家	昭和 48 年	207	11,675	0	100.0%
4	東部児童館	昭和 51 年	249	17,865	0	100.0%
5	山崎2区会館	昭和 52 年	123	51,811	0	100.0%
6	旭丘会館	昭和 52 年	69	3,600	0	100.0%
7	立岩会館	昭和 53 年	247	14,000	0	100.0%
8	落部7区会館	昭和 53 年	165	3,831	0	100.0%
9	山越農業会館	昭和 53 年	133	10,408	0	100.0%
10	わらび野会館	昭和 54 年	82	5,970	0	100.0%
11	春日会館	昭和 54 年	147	10,500	0	100.0%
12	入沢会館	昭和 56 年	137	11,080	0	100.0%
13	春日生活改善センター	昭和 56 年	197	10,500	0	100.0%
14	立岩2区会館	昭和 57 年	172	15,080	0	100.0%
15	浜松生活改善センター	昭和 57 年	197	18,498	0	100.0%
16	上ノ湯会館	昭和 57 年	123	9,900	0	100.0%
17	東雲町会館	昭和 57 年	201	17,300	0	100.0%
18	赤笹会館	昭和 57 年	123	10,000	0	100.0%
19	花浦1区会館	昭和 58 年	208	21,370	2,701	87.4%
20	内浦町1区会館	昭和 58 年	198	12,780	0	100.0%
21	東野1区会館 (消防団第八分団格納所)	昭和 59 年	279	29,550	2,495	91.6%
22	山崎1区会館	昭和 59 年	203	21,240	0	100.0%
23	黒岩会館	昭和 60 年	380	43,189	2,167	95.0%
24	元町会館	昭和 60 年	142	12,500	0	100.0%
25	豊河町会館	昭和 60 年	142	9,980	0	100.0%
26	上八雲会館	昭和 61 年	138	11,300	0	100.0%

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
27	大木平会館	昭和 61 年	87	7,250	0	100.0%
28	花浦山会館	昭和 62 年	172	17,525	1,138	93.5%
29	鉛川会館	昭和 62 年	87	6,500	0	100.0%
30	山越由追会館	昭和 63 年	139	13,100	0	100.0%
31	栄浜会館 (八雲消防団第七分団格納所)	昭和 63 年	245	25,165	707	97.2%
32	春日2区会館	平成元年	87	8,695	0	100.0%
33	大新会館	平成元年	198	18,025	0	100.0%
34	山越中央会館 (八雲消防団第三分団格納所)	平成元年	289	32,108	0	100.0%
35	東部生活館	平成 2 年	410	76,630	19,158	75.0%
36	三杉町会館	平成 2 年	142	15,553	0	100.0%
37	出雲町会館	平成 2 年	223	24,926	0	100.0%
38	川向会館	平成 3 年	158	16,274	0	100.0%
39	落部レクリエーションセンター	平成 5 年	539	138,586	47,119	66.0%
40	栄町会館	平成 6 年	330	41,492	1,411	96.6%
41	内浦生活館	平成 9 年	330	53,970	9,283	82.8%
42	野田生会館	平成 13 年	426	87,570	31,175	64.4%
43	熱田会館	平成 14 年	139	18,007	7,239	59.8%
熊石地域						
44	相沼母と子の家	昭和 39 年	198	6,700	0	100.0%
45	泊川児童館	昭和 41 年	198	4,597	0	100.0%
46	鮎川生活館	昭和 45 年	197	9,750	0	100.0%
47	関内生活改善センター	昭和 45 年	197	7,560	0	100.0%
48	平生活改善センター	昭和 46 年	192	7,570	0	100.0%
49	鳴神生活改善センター	昭和 52 年	172	16,990	0	100.0%
50	見日生活改善センター	昭和 53 年	194	22,600	23	99.9%
51	折戸振興会館	昭和 53 年	205	24,420	24	99.9%
52	西浜振興会館	昭和 58 年	189	29,900	4,066	86.4%
53	置岩振興会館	昭和 59 年	187	27,690	4,513	83.7%

■元町会館



■東雲町会館



■三杉町会館



■栄町会館



■平生活改善センター



■折戸振興会館



②他自治体との比較

主な分類による道内他団体（近隣市及び人口が1～2万人程度の市町）との比較を示すと以下のとおりになります。

なお、道内他団体との比較については、総務省の「平成 25 年度公共施設状況調経年比較表」のデータを用いています。また、八雲町の箇所数や延床面積については、平成 26 年度末の数値を使用しています。

地域会館等を道内他団体と比較すると、延床面積及び人口一人当たりの延床面積ともに平均よりも広い傾向にあります。

■同規模自治体との比較（地域会館）

番号	団体名	自治体情報		箇所数	延床面積 (㎡)	人口一人当たり 延床面積
		人口 (人)	行政面積 (km ²)			(㎡/人)
1	八雲町	17,852	956	53	10,404	0.6
2	新ひだか町	24,295	1,148	206	17,252	0.7
3	中標津町	24,205	685	71	5,919	0.2
4	美唄市	23,984	278	125	6,270	0.3
5	紋別市	23,644	831	94	7,411	0.3
6	富良野市	23,324	601	87	8,077	0.3
7	留萌市	22,957	298	87	6,123	0.3
8	深川市	22,278	529	137	10,340	0.5
9	遠軽町	21,432	1,332	113	14,010	0.7
10	美幌町	20,851	438	56	7,372	0.4
11	士別市	20,676	1,119	153	9,803	0.5
12	釧路町	20,329	253	64	4,654	0.2
13	余市町	20,152	141	50	3,024	0.2
14	芽室町	19,218	514	33	4,891	0.3
15	白老町	18,378	426	113	7,599	0.4
16	砂川市	18,112	79	70	7,474	0.4
17	当別町	17,251	423	69	5,174	0.3
18	森町	17,004	369	64	6,794	0.4
19	別海町	15,847	1,320	42	19,375	1.2
20	倶知安町	15,825	261	50	3,876	0.2
21	芦別市	15,404	865	71	5,493	0.4
	平均	20,144	613	86	8,159	0.4

(5)町営住宅

①現在の状況

本町の町営住宅は、以下のとおりです。

町営住宅の老朽化率は14ページに記載したとおり、63.9%と老朽化が進んでいます。このような状況の中、本町では現在、「住生活基本計画（マスタープラン）」および「公営住宅長寿命化計画」を基に町全体の住宅環境改善を行っています。

なお、下表においては、複数の棟をまとめてひとつの団地として表記しており、そのうち最も古い棟の取得年度を記載しています。

No.	建物名称	棟数 (棟)	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
八雲地域							
1	元町団地	10	昭和44年	1,144	33,211	0	100.0%
2	東町団地	4	昭和52年	1,147	85,079	31	99.9%
3	三杉町団地	11	昭和36年	2,515	158,519	11,860	92.5%
4	出雲町A団地	10	昭和55年	3,939	503,548	247,898	50.8%
5	出雲町B団地	6	昭和51年	2,514	341,563	157,815	53.8%
6	出雲町C団地	16	昭和32年	2,413	60,823	0	100.0%
7	出雲町D団地	9	昭和40年	1,876	38,418	0	100.0%
8	宮園町団地	4	昭和63年	2,331	263,622	116,191	55.9%
9	新栄町団地	3	平成11年	3,717	461,464	302,406	34.5%
10	浜松団地	1	昭和54年	278	23,206	650	97.2%
11	野田生団地	5	昭和38年	1,424	100,613	949	99.1%
12	落部団地	5	昭和42年	2,620	278,005	180,320	35.1%
13	黒岩町有住宅 (旧黒岩中学校教職員住宅)	2	昭和43年	105	15,750	0	100.0%
14	わらび野町有住宅 (旧わらび野小学校教職員住宅)	1	昭和49年	57	3,653	0	100.0%
15	栄浜町有住宅 (旧栄浜小学校教職員住宅)	2	昭和50年	118	13,654	0	100.0%
16	上の湯町有住宅 (旧上の湯小学校教職員住宅)	1	昭和55年	71	6,980	384	94.5%
17	赤笹町有住宅 (旧赤笹小学校教職員住宅)	2	昭和55年	144	22,320	0	100.0%
18	桜野町有住宅 (旧桜野小学校教職員住宅)	2	昭和57年	149	22,940	0	100.0%
19	移住者体験住宅	2	昭和42年	120	12,245	0	100.0%

No.	建物名称	棟数 (棟)	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
熊石地域							
20	相沼団地	4	昭和 50 年	862	82,680	0	100.0%
21	折戸団地	14	昭和 45 年	3,905	476,862	134,088	71.9%
22	泊川団地	5	昭和 45 年	1,104	90,297	1,519	98.3%
23	鮎川団地	2	昭和 35 年	255	4,029	0	100.0%
24	平団地	8	昭和 42 年	2,030	193,898	21,710	88.8%
25	根崎団地	6	昭和 54 年	1,904	181,907	0	100.0%
26	雲石団地	7	昭和 57 年	4,982	710,883	377,714	46.9%
27	鳴神団地	2	昭和 60 年	683	67,106	0	100.0%
28	関内団地	3	昭和 47 年	636	55,878	3,750	93.3%
29	関内町有住宅	2	昭和 43 年	112	9,550	0	100.0%

②他自治体との比較

主な分類による道内他団体（近隣市及び人口が1～2万人程度の市町）との比較を示すと以下のとおりになります。

なお、道内他団体との比較については、総務省の「平成25年度公共施設状況調経年比較表」のデータを用いています。なお、町営住宅の状況は平成27年度末現在の数値を使用しています。

町営住宅を道内他団体と比較すると、人口一人当たりの戸数はほぼ平均並みになっています。

■同規模自治体との比較（町営住宅）

番号	団体名	自治体情報		町営住宅の状況				
		人口 (人) (H27.1)	行政面積 (km ²)	1 公営 住宅 (戸)	2 改良 住宅 (戸)	3 単独 住宅 (戸)	合計 (戸)	人口一人当 たり戸数 (戸/人)
1	八雲町	17,852	956	635	40	16	691	0.04
2	新ひだか町	24,295	1,148	1,347	129	8	1,484	0.06
3	中標津町	24,205	685	766	-	-	766	0.03
4	美唄市	23,984	278	866	182	-	1,048	0.04
5	紋別市	23,644	831	1,132	-	8	1,140	0.05
6	富良野市	23,324	601	661	-	14	675	0.03
7	留萌市	22,957	298	1,071	320	-	1,391	0.06
8	深川市	22,278	529	663	-	-	663	0.03
9	遠軽町	21,432	1,332	902	6	152	1,060	0.05
10	美幌町	20,851	438	661	134	-	795	0.04
11	士別市	20,676	1,119	1,109	-	46	1,155	0.06
12	釧路町	20,329	253	246	-	-	246	0.01
13	余市町	20,152	141	521	48	-	569	0.03
14	芽室町	19,218	514	811	-	8	819	0.04
15	白老町	18,378	426	951	-	63	1,014	0.06
16	砂川市	18,112	79	795	570	-	1,365	0.08
17	当別町	17,251	423	494	-	-	494	0.03
18	森町	17,004	369	485	72	6	563	0.03
19	別海町	15,847	1,320	294	-	73	367	0.02
20	倶知安町	15,825	261	466	-	-	466	0.03
21	芦別市	15,404	865	1,003	712	48	1,763	0.11
平均		20,144	613	756	221	40	883	0.04

(6)産業・観光施設

①現在の状況

本町の主な産業・観光施設は、以下のとおりです。

産業関連施設は、農業、水産業関連施設が中心です（ファームメイド遊楽部館、鮎川水気耕園芸センター、八雲町地域バイオマス利活用施設、熊石海洋深層水取水施設、熊石水産種苗センターなど）。また、観光関連施設には、丘の駅や鉛川レクリエーションセンター、青少年旅行村、あわびの湯などがあります。

八雲地域、熊石地域とも多様な施設を有していますが、取得価額の大きな大規模施設もいくつかあり、今後の地場産業の発展や展開を考慮した配置についての検討が必要と考えます。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
八雲地域						
1	農業研修者支援住宅	昭和46年	99	3,039	0	100.0%
2	農業研修者支援住宅	昭和47年	99	3,513	0	100.0%
3	農業研修者支援住宅	昭和47年	99	3,514	0	100.0%
4	農業研修者支援住宅 E1	昭和43年	56	1,508	0	100.0%
5	農業研修者支援住宅 E2	昭和45年	49	1,561	0	100.0%
6	農業研修者支援住宅 E3	昭和48年	49	2,500	0	100.0%
7	農業研修者支援住宅 E4	昭和48年	49	2,420	0	100.0%
8	畜産資料展示施設(展望台)	平成3年	118	11,210	0	100.0%
9	育成牧場	平成5年	1,052	148,536	20,088	86.5%
10	ファームメイド遊楽部一号館	平成9年	875	282,852	145,386	48.6%
11	ファームメイド遊楽部二号館	平成9年	390	192,780	99,089	52.8%
12	入沢農業体験農園 A 棟	平成11年	324	24,795	11,703	49.5%
13	入沢農業体験農園 B 棟	平成12年	259	16,905	8,537	49.5%
14	八雲町地域バイオマス利活用施設	平成21年	10,822	778,890	624,670	19.8%
15	山崎海岸トイレ	不明	不明	不明	-	-
16	八雲本港公衆用トイレ	平成21年	32	3,200	2,624	18.0%
17	鉛川レクリエーションセンター	昭和60年	616	98,699	0	100.0%
18	八雲町技能研修センター	平成2年	230	21,785	0	100.0%
19	おぼこ山の家	平成8年	88	7,920	0	100.0%
20	勤労者センター	平成11年	322	48,195	12,723	73.6%
21	情報交流物産館「丘の駅」	平成25年	265	61,359	56,205	8.4%

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
熊石地域						
22	青少年旅行村 ふれあい交流館	平成 8 年	282	89,713	18,122	79.8%
23	青少年旅行村 ケビン(5 棟)	昭和 59 年	140	17,496	0	100.0%
24	青少年旅行村 ツリーハウス(10 棟)	平成 2 年	130	26,265	4,596	82.5%
25	青少年旅行村 バンガロー(5 棟)	平成 4 年	50	8,086	0	100.0%
26	青少年旅行村 きのごログ(4 棟)	平成 13 年	52	19,740	10,620	46.2%
27	青少年旅行村 公衆用トイレ A	平成 12 年	44	43,155	25,677	40.5%
28	青少年旅行村 公衆用トイレB	平成 21 年	16	8,505	7,127	16.2%
29	青少年旅行村 公衆用トイレ C	平成 22 年	24	2,684	1,785	33.5%
30	青少年旅行村 炊事場(2 棟)	平成 13 年	70	13,598	1,033	92.4%
31	青少年旅行村 子供の国東屋	昭和 57 年	41	3,150	0	100.0%
32	ふれあい広場 休憩所(ステージ兼用)	平成 13 年	91	31,915	19,851	37.8%
33	ふれあい広場 公衆トイレ	平成 12 年	36	47,723	28,395	40.5%
34	温泉熱利用施設園芸センター	昭和 53 年	1,979	51,440	0	100.0%
35	熊石水産種苗センター	昭和 57 年	1,571	191,487	144	99.9%
36	熊石水産種苗供給施設	平成 2 年	360	52,539	9,194	82.5%
37	鮎川水気耕園芸センター	平成 5 年	3,179	195,735	3,009	98.5%
38	熊石海洋深層水取水施設	平成 13 年	120	236,356	127,160	46.2%
39	熊石海洋深層水総合交流施設	平成 15 年	361	167,055	112,929	32.4%
40	熊石海洋深層水利活用施設(機械棟)	平成 15 年	100	307,440	185,694	39.6%
41	トイレットひらたない	平成 4 年	90	84,821	32,147	62.1%
42	あわびの湯	平成 9 年	1,400	519,750	313,929	39.6%
43	わんぱくの森休憩所	平成 13 年	39	3,920	737	81.2%

■八雲町地域バイオマス利活用施設



■熊石海洋深層水総合交流施設



(7)社会教育施設

①現在の状況

本町の主な社会教育施設は、以下のとおりです。

社会教育施設は、大きく以下の2つの類型に分類します。

- コミュニティ施設：町民センター、熊石総合センターなど
- 生涯学習施設：公民館、郷土資料館、図書館など

前述の14ページにあるとおり、社会教育施設全体での老朽化率は55.0%です。

コミュニティ施設では、町民センターの老朽化が進んでおり、大きな老朽化対策を講じていない状況です。今後は人口動向や利用ニーズにあわせた建て替えや機能の複合化が課題になります。

生涯学習施設はニーズの高さもあることから、改築や改修を実施しています。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	八雲町公民館	昭和40年	1,996	51,074	0	100.0%
2	埋蔵文化財保管庫 (旧浜松小学校屋内運動場)	昭和51年	233	30,557	0	100.0%
3	八雲町木彫り熊資料館	昭和52年	531	70,250	16,860	76.0%
4	八雲町郷土資料館	昭和52年	783	55,760	0	100.0%
5	八雲町郷土資料館 山越倉庫	昭和59年	112	9,400	0	100.0%
6	八雲町郷土資料館 収蔵庫	平成23年	499	64,019	55,568	13.2%
7	落部町民センター	昭和58年	1,401	226,515	78,412	65.4%
8	八雲町民センター	昭和59年	1,407	323,591	102,902	68.2%
9	八雲町立図書館	平成11年	1,727	462,000	314,160	32.0%
10	梅雲亭(梅村庭園)休憩施設	平成15年	248	57,055	28,299	50.4%
11	熊石総合センター	昭和55年	1,320	234,050	70,215	70.0%
12	熊石歴史記念館	昭和62年	1,075	352,950	86,120	75.6%
13	八雲町ふれあい交流センター くまいし館	平成26年	826	226,800	222,264	2.0%

②利用状況

主な施設の利用状況は以下のとおりです。

	八雲町公民館		八雲町民センター		落部町民センター		熊石総合センター	
	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均
平成17年度	31,992	89	11,348	37	4,802	15	3,381	14
平成18年度	32,603	91	14,972	49	4,972	16	5,465	22
平成19年度	27,310	76	15,891	52	5,633	18	3,945	16
平成20年度	30,555	85	14,700	48	2,726	9	3,853	16
平成21年度	27,592	77	13,119	43	9,102	30	3,787	16
平成22年度	26,397	74	12,407	40	5,940	19	5,381	22
平成23年度	29,932	83	12,596	41	4,291	14	3,667	15
平成24年度	30,019	83	11,920	39	4,746	15	3,568	15
平成25年度	30,700	86	12,268	40	3,326	11	2,477	10

	八雲町立図書館			郷土資料館		梅村庭園		熊石歴史記念館	
	利用者数	貸出 総数	1日平均 貸出数	総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均
平成17年度	20,797	78,722	267	2,432	8	7,449	25	856	5
平成18年度	21,531	84,000	285	1,989	7	7,885	26	1,028	6
平成19年度	21,023	84,206	285	2,176	7	6,798	23	442	2
平成20年度	22,624	92,003	310	2,689	8	7,631	25	641	4
平成21年度	23,036	88,424	303	2,114	7	7,820	26	568	3
平成22年度	25,313	90,248	304	1,672	6	7,758	26	530	3
平成23年度	23,720	87,726	296	1,817	6	6,868	23	493	3
平成24年度	21,873	82,311	278	1,973	6	6,924	29	403	2
平成25年度	19,820	75,627	255	3,108	10	7,114	29	447	2

③維持管理費の状況

主要な施設の維持管理費の状況を下記の表に示します。(平成 26 年度決算より)

(単位：千円)

施設名称	人件費	物件費、経費	合計
八雲町公民館	7,479	6,578	14,057
郷土資料館	4,333	1,800	6,133
八雲町民センター	321	3,951	4,272
落部町民センター	1,284	1,801	3,085
八雲町立図書館	25,544	18,168	43,712
梅雲亭(梅村庭園)	3,930	1,607	5,537
熊石総合センター	212	2,993	3,205
熊石歴史記念館	1,474	926	2,400

■八雲町公民館



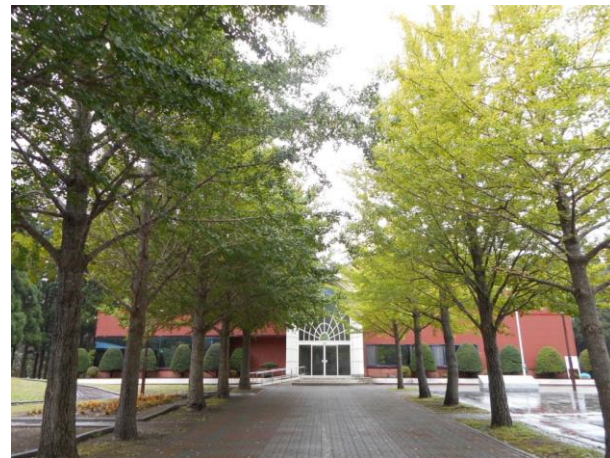
■郷土資料館



■八雲町立図書館



■熊石歴史記念館



(8) 体育施設

①現在の状況

当町の主な体育施設は、以下のとおりです。

体育施設は住民の利用ニーズが高いことから、これまでも比較的多数の大規模修繕や改修を行い、全体の老朽化率は42.1%と低めの傾向にあります。

特に総合体育館は、平成22年度にリニューアルを実施し、プールも平成15年度に改築、建て替えを終了しています。

今後はこれらの大規模施設の修繕計画などを立てるなどの検討が必要です。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	八雲町総合体育館	昭和52年	3,840	622,062	288,896	53.6%
2	八雲運動公園 トイレ	昭和51年	不明	不明	-	-
3	八雲運動公園 更衣室	平成5年	57	5,415	0	100.0%
4	落部多目的グラウンドトイレ	平成6年	45	10,661	0	100.0%
5	八雲スポーツ公園 管理棟	平成元年	272	48,960	23,501	52.0%
6	八雲スポーツ公園 トイレ	平成元年	不明	不明	-	-
7	八雲スポーツ公園 更衣室	平成3年	33	5,582	2,635	52.8%
8	八雲町営スキー場 休憩施設ロッジ	平成13年	497	103,584	19,474	81.2%
9	八雲町営スキー場 発券場	平成13年	不明	6,435	1,210	81.2%
10	八雲町営スキー場 監視小屋	平成13年	不明	450	85	81.1%
11	八雲町温水プール	平成15年	1,994	833,862	613,722	26.4%
12	ひらたないスキー場 ロッジ	昭和60年	97	2,150	0	100.0%
13	ひらたないスキー場 監視小屋	昭和60年	6	850	0	100.0%

②維持管理費の状況

主要な施設の維持管理費の状況を下記の表に示します。(平成26年度決算より)

(単位：千円)

施設名称	人件費	物件費、経費	合計
体育施設(運動公園、スポーツ公園)	5,861	5,461	11,322
総合体育館	10,283	10,109	20,392
町営スキー場	8,294	11,312	19,606
温水プール	8,852	23,891	32,743

③利用状況

■主要施設の利用状況

施設名称		平成 24 年度		平成 25 年度	
		総数	1日平均	総数	1日平均
スポーツ公園	トラック	5,812		6,815	
	フィールド	1,453		1,704	
	野球場	307		244	
	ソフト場	512		407	
	テニス	840		1,269	
	その他	9,426		7,508	
運動公園	野球場	7,293		7,703	
	運動広場(ソフトボール場)	5,988		5,930	
	テニスコート	7,333		9,127	
落部多目的グラウンド		8,281		8,930	
総合体育館		51,770	169	51,012	168
温水プール		30,531	139	29,116	133
町営スキー場		99,406	1,247	102,223	1,460
ひらたないスキー場		2,328	47	2,404	47

■八雲町総合体育館



■八雲町温水プール



(9)学校教育施設

①現在の状況

本町の主な学校教育施設は、以下のとおりです。

現在の小学校は八雲地域で7校、熊石地域で4校を運営しています。小学校の全児童数は平成26年度5月時点で836人、合併当初の平成18年度で1,049人から約2割が減少しています。

中学校は、八雲地域で3校、熊石地域で2校を運営しています。全生徒数は平成26年度5月時点で450人、合併当初の平成18年度の597人から約2.5割が減少しています。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
八雲地域						
1	落部小学校	昭和56年	2,996	572,955	147,900	74.2%
2	東野小学校	昭和60年	1,823	393,848	137,157	65.2%
3	山越小学校	昭和62年	1,786	423,070	166,269	60.7%
4	野田生小学校	平成2年	2,368	667,234	304,487	54.4%
5	山崎小学校	平成4年	1,408	553,316	138,397	75.0%
6	浜松小学校	平成16年	873	260,285	174,391	33.0%
7	八雲小学校	平成25年	7,632	1,922,621	1,679,560	12.6%
8	旧春日小学校	昭和32年	636	31,250	558	98.2%
9	旧栄浜小学校	昭和39年	833	39,673	0	100.0%
10	旧桜野小学校	昭和57年	308	28,028	0	100.0%
11	落部中学校	昭和50年	3,129	628,033	189,198	69.9%
12	八雲中学校	昭和54年	7,103	1,085,727	259,350	76.1%
13	野田生中学校	平成8年	3,930	1,351,170	794,140	41.2%
14	旧黒岩中学校	昭和39年	1,644	122,459	0	100.0%
15	八雲町学校給食センター	昭和58年	790	219,992	0	100.0%
熊石地域						
16	相沼小学校	昭和52年	2,410	299,521	35,875	88.0%
17	関内小学校	昭和55年	1,578	248,326	59,894	75.9%
18	雲石小学校	昭和60年	4,013	668,520	226,780	66.1%
19	泊川小学校	昭和63年	1,959	383,328	132,527	65.4%
20	熊石第一中学校	昭和54年	3,919	569,230	149,951	73.7%
21	熊石第二中学校	昭和57年	3,128	360,642	99,113	72.5%
22	熊石学校給食センター	昭和53年	319	39,495	2,962	92.5%

②利用状況

■児童数

(平成26年5月1日現在)

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	合計
八雲小学校	84	94	99	90	101	101	569
落部小学校	7	22	22	21	20	16	108
東野小学校	4	1	12	6	6	3	32
野田生小学校	0	3	6	1	4	4	18
山越小学校	0	4	1	2	1	2	10
浜松小学校	1	7	1	3	5	3	20
山崎小学校	0	2	2	4	0	2	10
八雲地域小計	96	133	143	127	137	131	767
関内小学校	1	0	1	2	0	1	5
雲石小学校	6	5	5	9	5	3	33
泊川小学校	1	1	1	4	0	1	8
相沼小学校	2	2	4	6	3	6	23
熊石地域小計	10	8	11	21	8	11	69
合計	106	141	154	148	145	142	836

■生徒数

(平成26年5月1日現在)

	1 学年	2 学年	3 学年	合計
八雲中学校	86	120	106	312
落部中学校	23	9	18	50
野田生中学校	10	12	10	32
八雲地域小計	119	141	134	394
熊石第一中学校	11	12	10	33
熊石第二中学校	4	9	10	23
熊石地域小計	15	21	20	56
合計	134	162	154	450

③維持管理費の状況

主要な施設の維持管理費の状況を下記の表に示します。(平成26年度決算より)

(単位：千円)

施設名称	人件費	物件費、経費	合計
八雲町学校給食センター	40,647	101,235	141,882
熊石学校給食センター	15,253	22,236	37,489

■八雲小学校



■落部小学校



■八雲中学校



■熊石第一中学校



■八雲町学校給食センター



■熊石学校給食センター



(10)教職員住宅

本町の主な教職員住宅は、以下のとおりです。

教職員住宅の全体の老朽化率は14ページで前述したとおり、82.7%とかなり高い傾向になっています。

これまでも改修や改善を行っていないため、今後は計画的な改修・改築が必要です。

No.	建物名称	棟数 (棟)	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	教職員住宅A	2	昭和55年	142	15,620	1,572	89.9%
2	教職員住宅B	4	昭和51年	413	66,665	4,574	93.1%
3	教職員住宅D	5	昭和49年	321	33,792	4,587	86.4%
4	教職員住宅E	11	昭和42年	715	64,927	12,870	80.2%
5	教職員住宅G	2	昭和59年	154	18,950	3,856	79.7%
6	教職員住宅H	3	昭和51年	207	33,395	5,177	84.5%
7	教職員住宅I	2	昭和52年	302	31,864	13,043	59.1%
8	教職員住宅J	1	平成4年	77	12,515	4,743	62.1%
9	教職員住宅L	8	昭和42年	1,165	146,802	54,534	62.9%
10	教職員住宅M	2	昭和60年	161	19,230	4,662	75.8%
11	教職員住宅N	3	昭和49年	235	24,351	4,833	80.2%
12	教職員住宅P	1	平成5年	206	38,471	0	100.0%
13	教職員住宅R	2	平成10年	155	15,500	3,765	75.7%
14	教職員住宅S	2	昭和51年	136	14,830	1,638	89.0%
15	教職員住宅T	3	平成3年	213	26,066	3,141	88.0%
16	教職員住宅U	3	昭和51年	187	21,076	2,312	89.0%
17	教職員住宅V	15	昭和44年	1,014	92,307	3,078	96.7%
18	教職員住宅W	1	平成10年	66	6,600	1,439	78.2%
19	教職員住宅X	5	昭和44年	312	33,417	1,357	95.9%
20	教職員住宅Y	3	昭和61年	201	34,393	5,245	84.8%
21	教職員住宅Z	10	昭和42年	835	112,258	28,589	74.5%
22	熊石雲石町職員住宅	2	昭和44年	119	36,105	0	100.0%
23	熊石平町職員住宅	5	昭和47年	528	53,920	0	100.0%

(11)消防施設

本町の消防施設は、以下のとおりです。

本部庁舎が平成 23 年度に建て替えを行っているものの、各分団の格納所は地域会館と併用していることもあり、老朽化率は高めの傾向です。

単純な建て替えだけではなく、地域会館と同様に地域の防災拠点としての在り方を考える必要があります。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	八雲町消防本部庁舎	平成 23 年	2,099	731,078	672,592	8.0%
2	八雲町消防本部補助訓練棟	平成 23 年	255	22,950	20,471	10.8%
3	八雲消防団西分団格納所	昭和 55 年	419	69,000	20,700	70.0%
4	八雲消防団第一分団格納所	平成 5 年	115	14,214	0	100.0%
5	八雲消防団第二分団格納所	平成 15 年	123	23,646	7,188	69.6%
6	八雲消防団第四分団格納所	平成 2 年	111	11,021	0	100.0%
7	八雲消防団第五分団格納所	平成 11 年	115	19,950	1,436	92.8%
8	八雲消防署落部出張所 (第六分団格納所)	昭和 52 年	335	37,000	8,880	76.0%
9	熊石消防署	昭和 56 年	613	104,020	33,286	68.0%
10	熊石消防署相沼泊川分遣所	平成元年	166	38,831	18,639	52.0%
11	熊石消防団第二分団積載車車庫	昭和 51 年	28	806	0	100.0%
12	熊石消防団第二分団機械・器具置き場	昭和 47 年	10	600	0	100.0%
13	熊石消防団第三分団積載車車庫	昭和 53 年	15	900	0	100.0%
14	熊石消防団第三分団機械・器具庫	平成 21 年	10	600	359	40.2%
15	相沼水防倉庫	昭和 37 年	33	300	0	100.0%
16	見日水防倉庫	昭和 40 年	33	320	0	100.0%

■八雲町消防本部庁舎



■熊石消防署



■八雲消防署落部出張所



■熊石消防署相沼泊川分遣所



(12)公園施設

本町の公園にある管理人詰所やトイレ等の建築物は以下のとおりです。

大規模な施設はほとんどないため、延床面積も小さく、取得価額も高額ではないものばかりです。古いものでは既に耐用年数を迎えているものもありますが、他の施設と比べると、建て替えや改修の優先順位は低くなるものと考えられます。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	相生公園管理人詰所	昭和 60 年	19	1,050	0	100.0%
2	相生公園旧公衆トイレ(物置)	昭和 57 年	66	2,536	0	100.0%
3	相生公園公衆トイレ	昭和 57 年	66	2,536	0	100.0%
4	相生公園公衆トイレ	平成 21 年	44	12,842	7,679	40.2%
5	さらんべ公園管理詰所	平成 5 年	50	8,395	638	92.4%
6	さらんべ公園トイレ	昭和 63 年	不明	不明	-	-
7	さらんべ公園トイレ	平成 16 年	32	9,660	2,647	72.6%
8	落部公園管理人詰所	平成 6 年	50	10,279	1,213	88.2%
9	落部公園トイレ	昭和 59 年	16	3,050	214	93.0%
10	落部公園トイレ	平成 5 年	15	9,064	0	100.0%
11	落部公園公衆トイレ	平成 26 年	57	17,345	16,183	6.7%
12	遊楽部公園 管理棟	平成 10 年	85	27,767	7,941	71.4%
13	遊楽部公園 管理棟	平成 11 年	85	31,070	10,191	67.2%
14	遊楽部公園 管理棟	平成 12 年	85	32,211	11,918	63.0%
15	遊楽部公園 D倉庫	平成 15 年	99	7,256	1,509	79.2%
16	立岩公園トイレ	平成 4 年	10	5,665	1,756	69.0%
17	ウェルカム広場トイレ	平成 6 年	11	5,974	2,210	63.0%
18	黒岩農村公園トイレ	平成 10 年	64	18,083	0	100.0%
19	野田生公園トイレ	平成 10 年	38	17,846	0	100.0%
20	ひらの公園トイレ	平成 13 年	20	20,612	12,820	37.8%

(13)環境衛生施設

本町の環境衛生施設は、以下のとおりです。

八雲町斎場は築 30 年近く経過しており、老朽化が進んでいます。熊石斎場は平成 19 年度に改築工事を行っています。

また、旧山崎じん介処理場（その他の施設にて後述）に代わり、平成 15 年度にリサイクルセンターが建設されました。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
1	八雲町斎場	昭和 62 年	341	160,628	70,689	56.0%
2	野田生浄水場	平成 5 年	383	86,370	35,066	59.4%
3	大新浄水場	平成 11 年	125	48,300	27,434	43.2%
4	落部浄水場	平成 13 年	388	92,273	57,394	37.8%
5	黒岩浄水場	平成 25 年	355	98,967	93,623	5.4%
6	八雲下水浄化センター	平成 7 年	4,501	1,326,292	806,454	39.2%
7	落部地区農業集落排水下水処理施設	平成 10 年	711	456,330	250,888	45.0%
8	八雲町リサイクルセンター	平成 15 年	1,725	622,650	376,081	39.6%
9	浸出水水処理施設	平成 13 年	459	71,145	44,252	37.8%
10	八雲墓地公衆便所	不明	不明	不明	-	-
11	真萩ポンプ場	平成元年	169	550,000	163,900	70.2%
12	旧大新浄水場	昭和 41 年	106	4,178	0	100.0%
13	旧野田生浄水場	昭和 53 年	88	17,010	17	99.9%
14	旧黒岩浄水場	昭和 56 年	49	9,262	759	91.8%
15	旧落部浄水場	平成 4 年	101	11,470	4,347	62.1%
16	熊石斎場	平成 19 年	208	82,100	64,366	21.6%
17	本町地区浄水場	平成 42 年	69	22,770	19,670	13.6%
18	相沼泊川地区浄水場	昭和 42 年	12	1,240	0	100.0%
19	熊石浄化センター	平成 12 年	2,110	1,065,995	644,747	39.5%

(14)その他の施設

本町にある上記以外の施設については、以下のとおりです。

車両センターや山車保管庫のほか、古くなった学校の校舎や旧法務局庁舎、旧じん介処理場、各地域のバス待合所などをその他の施設としています。

古い施設の中には倉庫などとして利用されているものもありますが、使用されなくなっている施設などについては、今後の対応を検討する必要があります。

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
八雲地域						
1	八雲町車両センター	平成 12 年	1,179	116,418	58,791	49.5%
2	生活環境保全管理棟	平成 7 年	19	1,805	289	84.0%
3	八雲町山車保管庫 1	平成元年	311	12,968	1,841	85.8%
4	八雲町山車保管庫 2	平成元年	311	12,968	1,841	85.8%
5	八雲町山車保管庫 3	平成 4 年	315	16,995	4,096	75.9%
6	山越公衆用トイレ	平成 5 年	21	10,619	0	100.0%
7	旧黒岩小学校	平成 6 年	1,814	707,301	318,035	55.0%
8	旧わらび野小学校	昭和 38 年	300	3,700	0	100.0%
9	旧赤笹小学校	昭和 41 年	226	4,070	0	100.0%
10	旧上の湯小学校	昭和 30 年	572	51,870	0	100.0%
11	旧第一分団消防車庫	昭和 44 年	64	1,900	0	100.0%
12	旧開建落部事務所	不明	234	36,103	0	100.0%
13	旧栄浜かもめ保育園	昭和 54 年	200	15,522	0	100.0%
14	旧法務局庁舎	昭和 56 年	333	35,597	10,761	69.8%
15	旧山崎じん芥処理場	昭和 55 年	632	219,960	0	100.0%
16	黒岩小学校前バス待合所(上り)	平成 6 年	6	不明	-	-
17	黒岩駅前バス待合所(上り)	平成 6 年	6	不明	-	-
18	シラリ川バス待合所(上り)	平成 9 年	25	1,517	0	100.0%
19	北浜バス待合所(上り)	平成 17 年	不明	不明	-	-
20	山崎駅前バス待合所(上り)	平成 8 年	6	360	0	100.0%
21	南浜バス待合所(上り)	平成 8 年	6	360	0	100.0%
22	鷺の巣信号所前バス待合所(上り)	平成 7 年	不明	不明	-	-
23	八雲病院前バス待合所(上り)	平成 14 年	5	300	74	75.3%
24	八雲病院前バス待合所(下り)	平成 14 年	5	300	74	75.3%
25	山越駅前バス待合所(上り)	平成 7 年	不明	不明	-	-
26	山越駅前バス待合所(下り)	平成 7 年	不明	不明	-	-

No.	建物名称	取得年度	延床面積 (㎡)	取得価額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	老朽化率 (%)
27	由追バス待合所(上り)	平成 16 年	不明	不明	-	-
28	由追バス待合所(下り)	平成 15 年	不明	不明	-	-
29	由追2区バス待合所(下り)	平成 12 年	6	1,648	214	87.0%
30	野田生駅前バス待合所(上り)	平成 11 年	12	1,974	142	92.8%
31	沼尻バス待合所(下り)	平成 9 年	14	840	0	100.0%
32	東野バス待合所(上り)	平成 7 年	6	360	0	100.0%
33	東野バス待合所(下り)	平成 7 年	5	300	0	100.0%
34	落部駅前バス待合所(上り)	平成 5 年	6	1,545	0	100.0%
35	落部駅前バス待合所(下り)	平成 5 年	6	1,545	0	100.0%
36	栄浜バス待合所(下り)	平成 10 年	6	1,680	0	100.0%
37	浜松バス待合所(下り)	平成 8 年	不明	不明	-	-
38	浜松温泉バス待合所(下り)	平成 10 年	22	1,320	0	100.0%
39	豊河高速バス待合所(下り)	平成 27 年	9	540	540	0.0%
熊石地域						
40	直営除雪車両センター	昭和 52 年	386	5,996	0	100.0%
41	雲石団地共同物置	平成 4 年	246	14,760	5,594	62.1%
42	鮎川公衆便所	平成 14 年	22	10,800	0	100.0%
43	黒岩公衆トイレ	昭和 58 年	22	4,870	195	96.0%
44	旧泊川へき地保育所	昭和 57 年	161	12,325	1,343	89.1%
45	旧雲石研修センター	昭和 54 年	317	49,450	1,385	97.2%
46	旧根崎振興会館	昭和 61 年	66	5,900	0	100.0%
47	旧熊石法務局庁舎	昭和 57 年	218	3,610	1,227	66.0%
48	旧熊石郵便局	昭和 39 年	260	37,975	0	100.0%
49	旧雲石小学校見日分校	昭和 35 年	389	394	0	100.0%
50	総合センター前バス待合所(下り)	平成 12 年	4	1,481	192	87.0%
51	館平漁業組合前バス待合所(下り)	平成 8 年	4	1,288	0	100.0%
52	見日バス待合所(下り)	平成 9 年	4	1,376	0	100.0%
53	西浜バス待合所(上り)	平成 10 年	4	1,491	0	100.0%
54	西浜会館前バス待合所(上り)	平成 8 年	4	1,288	0	100.0%

5. インフラ系施設の概要

ここでは、建物以外の公共施設として、道路、橋梁、公園、上下水道といったインフラ系施設について概要をまとめます。インフラ系施設の管理については、建物のように個別の施設ごとの方針ではなく、全体像を把握したうえでの基本的な管理方針の策定が求められます。

(1)道路

本町がこれまでに整備した（供用開始している）道路の状況は下表のとおりです。町道の実延長は約49万mとなっています。

	路線数 (本)	実延長 (m)	再調達価額 (千円)	減価償却累計額 (千円)	期末簿価 (千円)
町道	575	494,490	79,118,347	39,759,114	39,359,233
農道	47	86,889	11,577,840	5,012,819	6,565,021
林道	257	75,603	7,514,621	3,278,964	4,235,657
合計	879	656,982	98,210,808	48,050,897	50,159,911

※数値は平成27年度末現在のものです。

総務省の「平成 25 年度公共施設状況調経年比較表」により人口規模の近い道内他団体と比較すると、人口一人当たりの延長（m）はほぼ平均並みとなっています。

なお、下表において、八雲町の実延長及び面積は平成 26 年度末の数値を使用しています。

■同規模自治体との比較（町道）

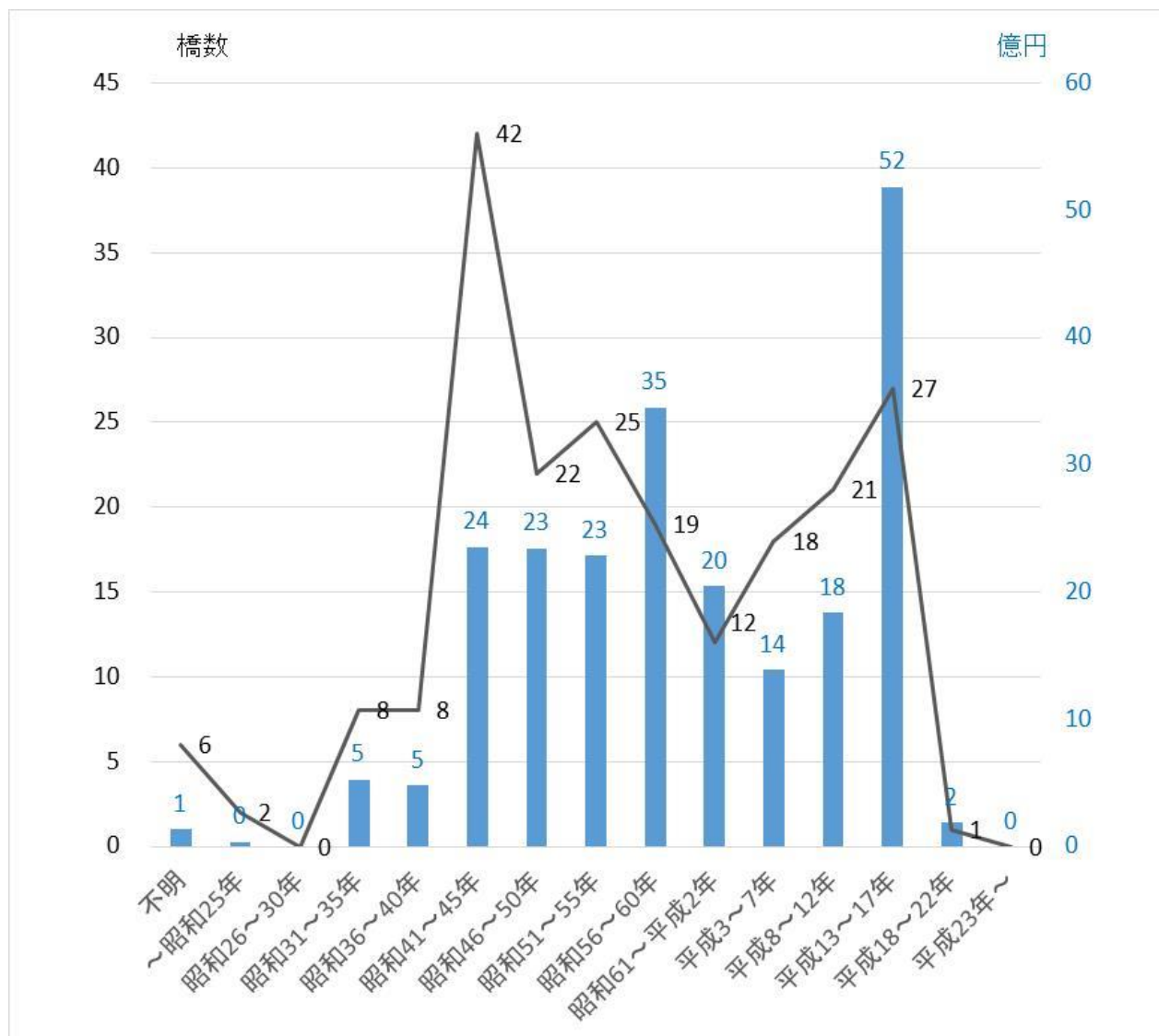
番号	団体名	自治体情報		道路状況			
		人口（人）	行政面積（km ² ）	実延長（m）	面積（m ² ）	人口一人当たり延長（m/人）	人口一人当たり面積（m ² /人）
1	八雲町	17,852	956	494,490	5,363,988	28	300
2	新ひだか町	24,295	1,148	460,808	5,882,235	19	242
3	中標津町	24,205	685	641,900	9,847,538	27	407
4	美唄市	23,984	278	531,222	7,618,503	22	318
5	紋別市	23,644	831	527,675	4,872,224	22	206
6	富良野市	23,324	601	681,690	7,547,035	29	324
7	留萌市	22,957	298	219,281	1,630,937	10	71
8	深川市	22,278	529	692,092	7,202,278	31	323
9	遠軽町	21,432	1,332	633,392	7,715,058	30	360
10	美幌町	20,851	438	486,438	6,619,638	23	317
11	士別市	20,676	1,119	837,877	9,743,201	41	471
12	釧路町	20,329	253	279,881	3,562,069	14	175
13	余市町	20,152	141	216,528	2,634,135	11	131
14	芽室町	19,218	514	922,368	12,344,883	48	642
15	白老町	18,378	426	446,711	4,330,178	24	236
16	砂川市	18,112	79	238,742	4,107,827	13	227
17	当別町	17,251	423	465,291	6,744,036	27	391
18	森町	17,004	369	255,638	2,706,143	15	159
19	別海町	15,847	1,320	1,174,688	20,645,161	74	1,303
20	倶知安町	15,825	261	265,643	1,723,330	17	109
21	芦別市	15,404	865	332,838	4,139,345	22	269
	平均	20,144	613	514,533	6,522,845	26	332

(2) 橋梁

橋梁には、長大橋から、小さな橋梁まで存在します。この橋梁は、町道だけではなく、農道及び林道にかかる橋梁を含みます。八雲町の橋梁は総数 211 橋、再調達価額の総額は約 222 億 6 千万円となります。

橋梁再調達価額を取得年度別に集計すると、下記のグラフのようになります。平成 15 年度（2003 年度）が最も多く、次いで昭和 59 年度（1984 年度）が多くなっています。

■ 供用開始年度別 橋梁の本数及び再調達価額（単位：橋数/億円）



※参考) 固定資産台帳データ

(3)公園

本町の都市公園は下表のとおりです。多くは昭和 40 年代後半に造られています。平成に入ってから、面積の大きな公園が作られています。

■八雲町の都市公園一覧

公園名	供用開始年度	面積(m ²)
立岩公園	昭和 38 年度	24,326
すずらん公園	昭和 40 年度	569
あおば公園	昭和 41 年度	730
ぽぷら公園	昭和 45 年度	908
すみれ公園	昭和 46 年度	492
ひまわり公園	昭和 46 年度	533
ひばり公園	昭和 46 年度	692
かつら公園	昭和 46 年度	1,103
たんぽぽ公園	昭和 47 年度	1,606
こまどり公園	昭和 48 年度	456
八雲運動公園	昭和 48 年度	59,604
のばら公園	昭和 49 年度	273
さらんべ公園	昭和 49 年度	40,669
相生公園	昭和 57 年度	19,596
八雲スポーツ公園	平成元年度	72,126
遊楽部湖畔公園	平成 5 年度	112,926
遊楽部公園	平成 11 年度	110,049
黒岩公園	平成 11 年度	9,115
野田生公園	平成 11 年度	16,699
ひらの公園	平成 14 年度	35,886
梅村庭園緑地	平成 15 年度	3,925
噴火湾パノラマパーク	平成 18 年度	72,463
シビック公園	平成 23 年度	25,630
合 計		610,376

総務省の「平成 25 年度公共施設状況調経年比較表」により人口規模の近い道内他団体と比較すると、箇所数や面積とも平均を下回っており、人口一人当たりの面積（㎡）は平均の半分ほどになっています。

なお、下表において、八雲町の箇所数及び面積は平成 26 年度末の数値を使用しています。

■同規模自治体との比較（公園）

番号	団体名	自治体情報		公園情報		
		人口（人）	行政面積（km ² ）	箇所数	面積（㎡）	人口一人当たり面積（㎡/人）
1	八雲町	17,852	956	23	610,376	34
2	新ひだか町	24,295	1,148	61	946,461	39
3	中標津町	24,205	685	30	1,583,701	65
4	美唄市	23,984	278	20	684,900	29
5	紋別市	23,644	831	38	1,587,841	67
6	富良野市	23,324	601	84	727,092	31
7	留萌市	22,957	298	47	830,445	36
8	深川市	22,278	529	34	1,032,164	46
9	遠軽町	21,432	1,332	28	1,120,746	52
10	美幌町	20,851	438	28	935,721	45
11	士別市	20,676	1,119	41	1,384,898	67
12	釧路町	20,329	253	43	3,129,655	154
13	余市町	20,152	141	53	281,503	14
14	芽室町	19,218	514	48	658,924	34
15	白老町	18,378	426	31	2,123,300	116
16	砂川市	18,112	79	26	3,627,730	200
17	当別町	17,251	423	17	308,504	18
18	森町	17,004	369	12	744,308	44
19	別海町	15,847	1,320	17	137,477	9
20	倶知安町	15,825	261	15	760,441	48
21	芦別市	15,404	865	59	1,493,963	97
平均		20,144	613	36	1,176,674	59

(4)上下水道施設

①水道の普及率

本町の水道の普及率は下記のとおりです。普及率は90%以上が維持され、町の人口は減少傾向にあるものの、普及率は徐々に上昇しています。

		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	
全町人口(人)		18,987	18,606	18,286	18,005	
給水人口 (人)	上水道	10,904	10,743	10,681	10,704	
	簡易水道	落部	1,753	1,692	1,649	1,553
		野田生	1,373	1,333	1,294	1,236
		黒岩	285	281	275	262
		大新	-	-	-	142
		熊石本町	1,743	1,708	1,638	2,609
		熊石相沼	1,118	1,079	1,049	
	小計	6,272	6,093	5,905	5,802	
合計	17,176	16,836	16,586	16,506		
普及率(%)		90.5%	90.5%	90.7%	91.7%	

※「熊石本町」と「熊石相沼」は平成25年度に統合

②下水道の普及状況

本町の下水道の普及状況は下記のとおりです。90%弱を維持しており、水道に比べると若干普及率が低い傾向にあります。

	全町人口 (人)	管渠延長 (m)	排水区域 面積 (ha)	処理区域 面積 (ha)	処理区域人口		水洗化人口	
					(人)	普及率 (%)	(人)	普及率 (%)
平成 23 年度	18,606	107,104	公共 372	372	10,253	78.2	9,901	88.3
			特環 190	190	2,658		1,937	
			農集 69	69	1,561		938	
平成 24 年度	18,286	107,972	公共 372	372	10,193	78.6	9,631	86.4
			特環 191	191	2,623		1,894	
			農集 69	69	1,548		880	
平成 25 年度	18,005	108,381	公共 374	374	10,218	79.2	9,493	86.3
			特環 191	191	2,544		1,903	
			農集 69	69	1,506		915	

※排水区域面積の種類別略称について、正式名称は下記のとおりです。

公共：公共下水道、特環：特定環境保全公共下水道、農集：農業集落排水

6. 公共施設等の更新等に係る中長期的な経費の見込み

(1) 公共施設(建物)の建築年度別の状況

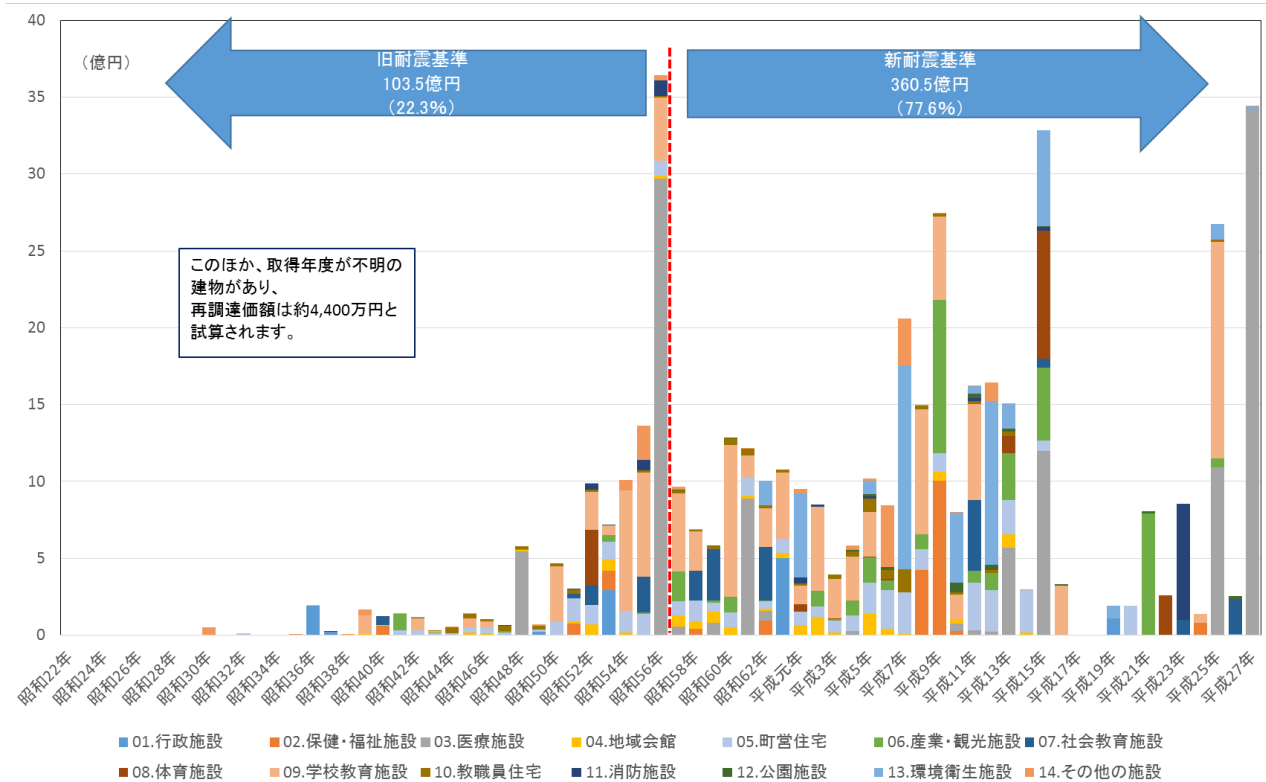
本町の公共施設(建物)を取得年度(建築年度)別・施設分類別に並べたものが下記のグラフです。

特に昭和50年代～平成17年頃までの間に、学校、病院、産業・観光施設、社会教育施設などの大規模な建設や改修が行われてきました。

時代が新しくなるにつれて、建物の構造も木造から鉄筋コンクリート造など耐用年数が長いものが増えておりますが、その分建物の更新にかかる費用も増大することになります。

■ 取得年度別・分類別取得価額

※ (参考) 固定資産台帳データ



(2) 公共施設等の老朽化の状況

公共施設等の老朽化率は以下の計算式であらわすことができます。老朽化率は100%に近いほど老朽化が進んでいるといえます。平均的な老朽化率は、35%~50%程度といわれています。

$$\text{老朽化率} = \text{減価償却累計額} / \text{取得価額（再調達価額）}$$

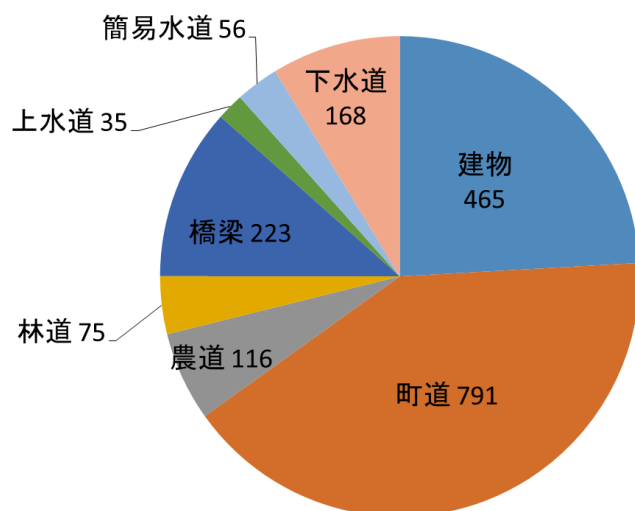
この計算式を用いて、現在の本町の老朽化率を示すと以下のとおりとなります。

■ 公共施設等の資産別の老朽化率

科目	再調達価額 (千円)	減価償却累計額 (千円)	期末帳簿価額 (千円)	老朽化率 (%)
建物	46,493,321	23,712,790	22,780,531	51.0%
町道	79,118,347	39,759,114	39,359,233	50.3%
農道	11,577,840	5,012,819	6,565,021	43.3%
林道	7,514,621	3,278,964	4,235,657	43.6%
橋梁	22,258,320	10,728,172	11,530,148	48.2%
上水道	3,547,612	1,168,951	2,378,661	33.0%
簡易水道	5,633,253	2,074,387	3,558,866	36.8%
下水道	16,805,958	4,804,500	12,001,458	28.6%
合計	192,949,272	90,539,697	102,409,575	46.9%

※財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」に規定する耐用年数を参考に算出しております。

■ 公共施設等の資産別の再調達価額（単位：億円）



種別	建替までの年数の考え方
道路(農道、林道を含む)	50年で舗装部分の打ち替え
橋梁	60年で架け替え
上水道	40年で更新
簡易水道管	40年で更新
下水道管	50年で更新

(3)公共施設資産更新必要額

①更新必要額

仮に、現在本町が保有する建物すべてを、同規模のまま大規模改修を行い、建て替える
と仮定すると、どのくらいの金額が必要となるかを試算してみます。

<前提>

現状の施設規模を維持することを前提としてコスト試算を行います。施設の統
廃合などによる施設数の増減や増改築による延床面積の増減については、ここで
は考慮しないものとします。

<更新内容と時期>

- ・ 建築後 30 年経過した施設は大規模改修を行う

改修必要額 = 改修単価 × 延床面積

- ・ 建築後 60 年経過した施設は建て替えを行う

建替必要額 = 建替単価 × 延床面積

※ここで用いている単価は、財団法人自治総合センターが開催した「平成 22 年度
地方公共団体の財政分析等に関する調査研究会」において開発された更新費用試
算ソフトに用いられているものです。

<病院特別会計について>

八雲総合病院と熊石国保病院にかかる改修・建替必要額については、一般会計
ではなく企業会計の対象となるため、ここでは対象外として除外します。

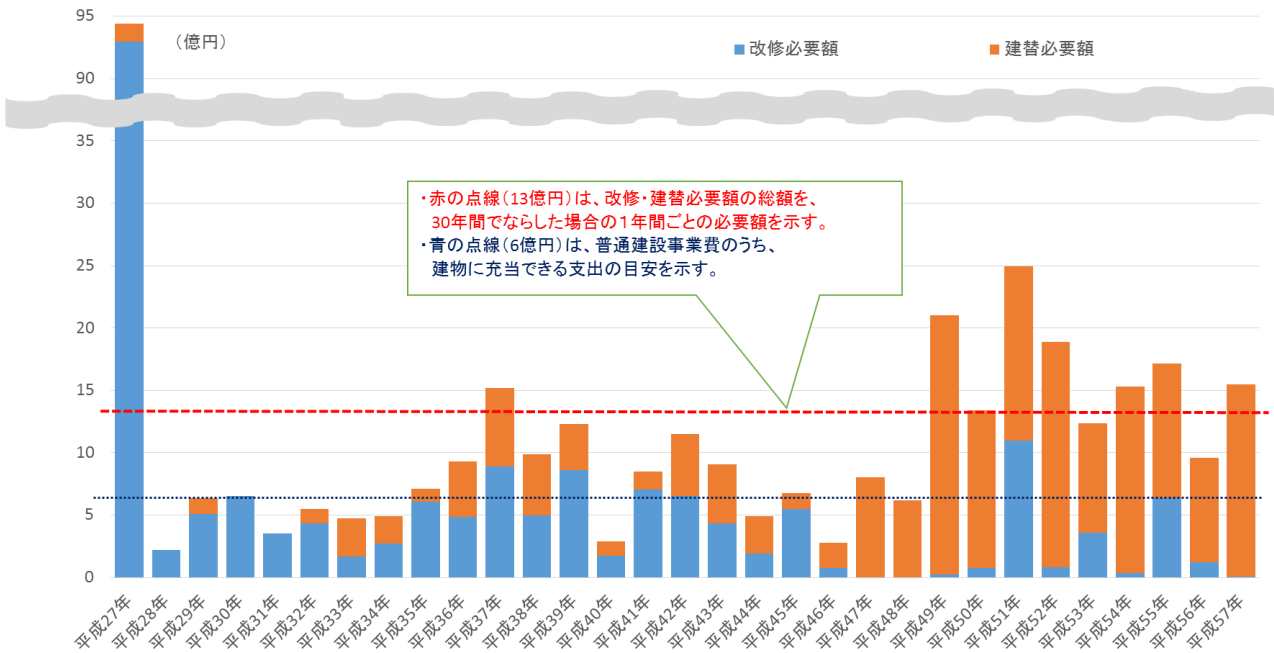
上記の基準に従って試算すると、今後 30 年間に改修・建替に必要となるコストは、改
修必要額総額で 206 億円、建替必要額総額で 187 億円、合計で 393 億円が必要となり、
年間 13 億円が必要となります（なお、病院企業会計では別途、改修必要額 44 億円と建
替必要額 27 億円の合計 71 億円が必要となります）。

また、平成 24～26 年度の 3 年間における普通建設事業費のうち、建物等にかかる 3
か年の平均は、6.3 億円であり、年間で建物のために支出できる金額の目安といえます。

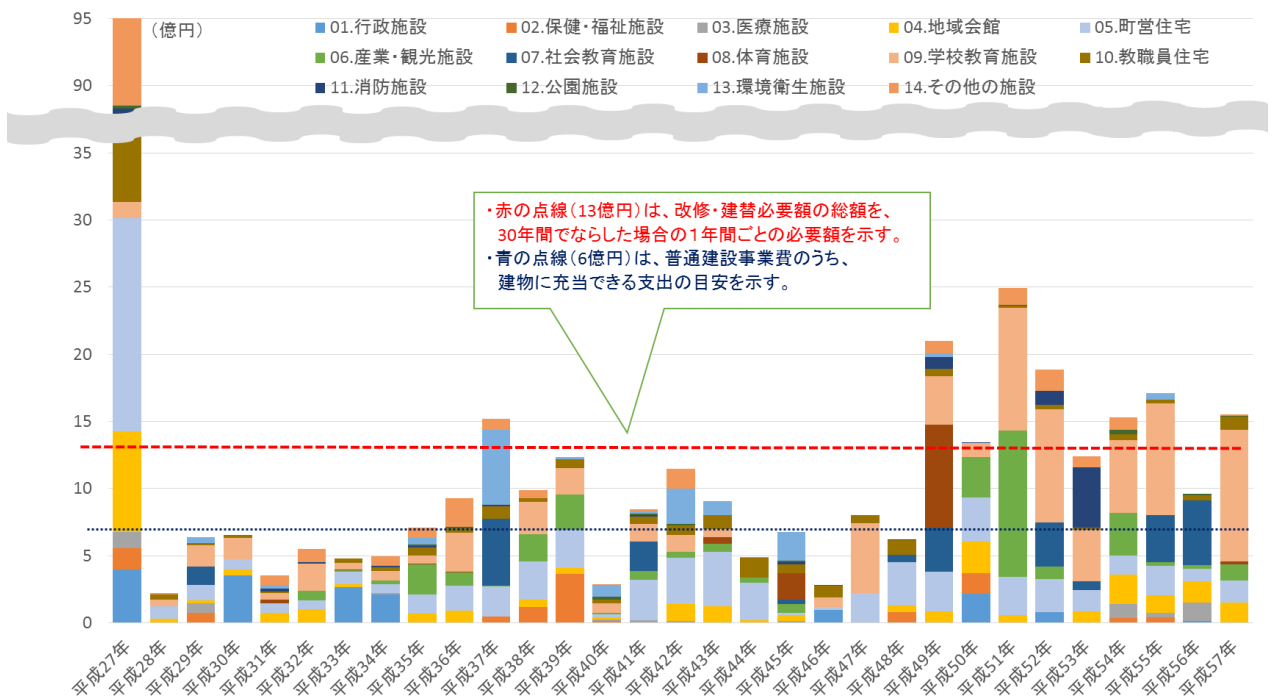
したがって、現状の規模の施設をすべて維持し続けると、年間の必要額 13 億円に対し、
充当可能な財源はおよそ 6 億円とされるため、その差額の 7 億円弱の金額が、毎年不足す
ることになります。また、平成 27 年度末の時点で、既に改修・建替の時期を迎えている
施設が、金額にして 94 億円あり、総額の 24%を占めています。

このような想定に対し、現状の公共施設のあり方は活用の仕方、更新の方針や財源の確
保について、利用状況や人口の推移とも照らし合わせながら、検討していかなければなり
ません。

■公共施設（建物）の改修・建替必要額の推移



■公共施設（建物）の資産分類別 改修・建替必要額の推移



②将来負担額の推計

前述のとおり、今後 30 年間、このまま公共施設（建物）を全て保有し続けた場合の必要コストを試算したところ、30 年間で約 393 億円、年平均で約 13 億円となります。

これを前述の人口推移を基に、総人口での一人当たりの負担額の推移をみると 2045（平成 57）年には 2015（平成 27）年と比較して 1.4 倍、生産年齢人口での一人当たりの負担額は 1.7 倍となります。

■人口減少も考慮した将来負担の推計

	2015 年 (平成 27 年)	2020 年 (平成 32 年)	2025 年 (平成 37 年)	2030 年 (平成 42 年)
年間平均必要更新額	13 億円	13 億円	13 億円	13 億円
八雲町人口推移予測 ※	17,728 人	16,789 人	15,885 人	15,023 人
八雲町人口 一人当たり負担額	73,330 円	77,432 円	81,838 円	86,534 円
うち生産年齢人口※ (15~64 歳)	10,180 人	9,151 人	8,408 人	7,755 人
うち生産年齢人口 (15~64 歳) 一人当たり負担額	127,701 円	142,061 円	154,615 円	167,634 円

	2035 年 (平成 47 年)	2040 年 (平成 52 年)	2045 年 (平成 57 年)
年間平均必要更新額	13 億円	13 億円	13 億円
八雲町人口推移予測 ※	14,241 人	13,516 人	12,806 人
八雲町人口 一人当たり負担額	91,286 円	96,182 円	101,515 円
うち生産年齢人口※ (15~64 歳)	7,212 人	6,578 人	6,053 人
うち生産年齢人口 (15~64 歳) 一人当たり負担額	180,255 円	197,628 円	214,770 円

※八雲町人口ビジョンより(2016 年 2 月)

7. 公共施設等の現状まとめ

(1) 公共施設等の改修・更新等への対応

過去に整備を進めてきた公共施設等の老朽化が進んでいます。今後、これらの公共施設等の改修・更新等の費用が発生することが見込まれ、今までのように改修・更新等への投資を継続していくと、町の財政を圧迫し、他の行政サービス（機能）に重大な影響を及ぼす可能性が出てくることが予想されます。

このような状況を回避するには、改修・更新等にかかる費用を全体的に抑制するとともに平準化させることが必要であり、今後は、中長期的な視点による計画的・戦略的な公共施設等の再編成・管理に取り組み、将来にわたっての取捨選択を行う必要があります。

また、現在、公共施設等の情報については、一元管理し、より効率的な管理・運営を推進していくための仕組みづくりが課題となります。

(2) 人口減少・少子高齢化社会への対応

冒頭に触れましたように、本町の人口は既に減少局面に入っており、平成52年には、平成22年から28.5%減の13,516人と推計されています。年齢構成別にみると、財政負担の中心的な役割を果たす生産年齢人口は少子高齢化の進展に伴い、平成52年には、平成22年の11,519人から42.9%減の6,578人となり、総人口の減少よりはるかに大きく落ち込むことが予想されています。そのため、このような人口構成の大きな転換に伴う町民のニーズの変化に対応した、適正な公共施設等の総量規模や配置を検討していく必要があります。

また、地域によって人口増減の傾向や少子・高齢化の進行状況が異なっていることから、各地域の特性に応じた公共施設等の適正な配置や管理・運営を行っていく必要があります。

(3) 逼迫する財政状況への対応

今後、人口の減少に伴い町税収入等一般財源の減少が予想されることに加えて、少子・高齢化に伴う扶助費等の義務的経費が増加することから、投資的経費等の公共施設等の維持管理のための財源確保が厳しくなることが見込まれます。こうした厳しい財政状況の中で、公共施設等の管理・運営にかかる費用を縮減し、なおかつ機能の維持を図っていくことが大きな課題となります。また、町民との協働や民間企業との連携も視野に入れながら、事業の効率化や維持管理費の削減に取り組む必要があります。